第百二十四條　左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ船舶檢査證書及特殊船檢査證書ヲ管海官廳ニ提出スベシ

一、船舶ニ付檢査ヲ受クルトキ

二、繫船シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ當該船舶ガ管海官廳ヨリ前項ノ規定ニ依リ提出シタル證書ノ返付ヲ受クルニ非ザレバ船舶檢査證書ノ有效期間内ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第百二十五條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證書ノ受有者ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ船舶檢査手帖ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スベシ

合格證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證明書ノ受有者ハ其ノ事由ヲ具シ原證明書ヲ交付シタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第百二十六條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ船長ハ船舶檢査手帖ヲ添ヘ遲滯ナク最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生ジタル事項ガ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載スベキモノナルトキハ船長ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ當該管海官廳ノ檢閲ニ供スベシ

第百二十七條　左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滯ナク船舶檢査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一、船舶ガ滅失若ハ沈沒シ又ハ解撤セラレタルトキ

二、船舶ガ檢査ヲ受クルコトヲ要セザルモノト爲リタルトキ

三、船舶檢査證書ノ有效期間滿了シタルトキ

第百二十八條　左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滯ナク特殊船檢査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一、前條ノ規定ニ依リ船舶檢査證書ヲ返還シタルトキ

二、船舶ガ其ノ特殊ノ用途ニ使用セラレザルニ至リタルトキ

三、特殊船檢査證書ノ有效期間滿了シタルトキ

第百二十九條　船舶用機關ヲ船舶ニ備附ケタルトキハ其ノ合格證明書ノ受有者ハ遲滯

ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

第百三十條　左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者若ハ船長又ハ合格證明書ノ受有者ハ舊船舶檢査證書、舊特殊船檢査證書又ハ舊合格證明書ヲ新證書又ハ新證明書ト引換ニ當該管海官廳ニ返還スベシ

一、船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ノ書換ヲ受ケタルトキ

二、船舶檢査證書、特殊船檢査證書又ハ合格證明書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第百三十一條　船舶檢査證書、特殊船檢査證書又ハ合格證明書ヲ返還スル義務アル者其ノ所在分明ナラザルトキ又ハ死亡シタルトキハ現ニ之ヲ保管スル者ニ於テ前四條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

第百三十二條　船長ハ船舶檢査證書、特殊船檢査證書及回航認可證書ヲ船内ノ見易キ場所ニ掲ゲ置クベシ

第百三十三條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ最寄管海官廳ニ申請スベシ

第百三十四條　前條ノ英譯書ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

但シ第百三十條第二號ノ規定ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十五條　左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶檢査證書ヲ受有セザル船舶ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一、日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二、船舶ヲ修繕シ又ハ檢査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ檢査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ

三、船舶法施行細則第四條第一項各號ニ該當スルトキ

四、繫船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號、第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ但シ船舶安全法施行地外ニ於テ製造セラレ又ハ國籍ヲ取得シ其ノ他同法ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クベキモノト爲リタル日本船舶ヲ前項第二號ノ規定ニ依リ回航スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十六條　前條第一項各號ノ場合ニ於テハ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ同條第二項但書ノ場合ニ於テ帝國領事官又ハ當該官廳ノ發給シタル堪航性ヲ證スル書面ヲ受有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十七條　第三十七條第二項又ハ第百三十五條第二項ノ規定ニ依リ申請書ノ提出アリタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付其ノ回航ノ適否又ハ旅客若ハ貨物搭載ノ適否ヲ調査シ之ヲ適當ト認ムルトキハ回航認可證書（第十三號書式）ヲ交付ス

第百三十八條　回航認可證書ノ有效期間ハ回航ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム

船舶ガ目的地ニ到達シタルトキハ回航認可證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第百二十五條第一項、第百二十七條及第百三十條第二號ノ規定ハ回航認可證書ニ之ヲ準用ス

第百三十九條　船舶檢査證書又ハ特殊船檢査證書滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告ス但シ其ノ有效期間滿了後ハ此ノ限ニ在ラズ

第百四十條　船舶檢査證書、特殊船檢査證書、其ノ英譯書又ハ回航認可證書ハ急速ヲ必要トスル場合ニ限リ申請ニ依リ休暇日ト雖モ其ノ交付、再交付又ハ書換ヲ爲スコトアルベシ

第十四章　再檢査

第百四十一條　船舶安全法第十一條ノ規定ニ依リ再檢査ヲ申請セントスルトキハ申請書ニ前檢査ニ對フル不服ノ事項及其ノ事由ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前檢査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第百四十二條　遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト認メタルトキ又ハ申請者ガ關係部分ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス

遞信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ特ニ指命シタル者ヲシテ再檢査ヲハ行シメ前檢査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ更ニ當該管海官廳ヲシテ檢査ノ種類ニ應ジ必要ナル證書又ハ證明書ヲ申請者ニ交付セシム

第百四十三條　前條第二項ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ指命シタル者ガ再檢査ヲ結了シタル場合ニ於テ遞信大臣ノ決定前關係部分ノ原狀ヲ變更セントスルトキハ再檢査ノ申

請者ハ前檢査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ申請書ヲ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

第十五章　船舶乘組員ノ不服申立

第百四十四條　船舶乘組員船舶安全法第十三條ノ規定ニ依リ申立ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル管海官廳宛ノ申立書ニ職務及氏名ヲ連記シ之ヲ當該船長ニ提出スベシ

一、重大ナル缺陷アリトスル事項及其ノ現狀

二、申立ヲ爲スニ至ル迄ノ顚末

第百四十五條　船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ之ニ對スル意見書及船舶檢査手帖ヲ添附シ遲滯ナク之ヲ當該管海官廳ニ提出スベシ

船舶ガ管海官廳所在地ニ在ラザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ遲滯ナク前項ノ書類ヲ其ノ後最初ニ到達スベキ港ニ在ル管海官廳ニ郵便其ノ他適當ノ方法ニ依リ提出スベシ

第百四十六條　船舶ノ發航直前ニ於テ第百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタルトキハ申立ノ事項ガ貨物ノ過載、積附其ノ他船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナル場合ヲ除クノ外船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ト雖モ船長ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ得

第百四十七條　管海官廳申立書ヲ審査シ船舶ガ當該管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者ノ出頭ヲ求メ又ハ船舶ニ臨檢シテ其ノ事實ヲ調査ス

管海官廳申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ船長及申立人ニ通告ス

第十六章　船級協會

第百四十八條　船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル檢査ノ業務ニ從事スル爲遞信大臣ノ認定ヲ受ケントスル船級協會ハ營利ヲ目的トセザル法人ナルコトヲ要ス

第百四十九條　船級協會前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一、主タル事務所並ニ出張所ノ名稱及所在地

二、役員ノ氏名

三、檢査員ノ氏名及履歴
四、定員又ハ寄附行爲
五、船級登錄及檢査ニ關スル規定
六、手數料及旅費ニ關スル規定

第百五十條　遞信大臣ノ認定ヲ受ケタル船級協會（以下單ニ船級協會ト稱ス）檢査員ヲ選任セントスルトキ又ハ前條第五號若ハ第六號ニ揭グル規定ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クベシ

前條第一號又ハ第二號ニ揭グル事項ニ變更アリタルトキハ船級協會ハ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第百五十一條　船級協會船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル船舶檢査ヲ行ヒタルトキハ遲滯ナク當該檢査報告書、乾舷計算表及該檢査ニ基キ發行シタル證書ノ謄本並ニ檢査依賴者ヨリ差出シタル圖面ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第百五十二條　遞信大臣前條ノ書類ヲ審査シ船級協會ノ行ヒタル檢査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ之ガ改訂ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

第百五十三條　船級協會ハ一月毎ニ船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル檢査ノ業務ニ關スル報告書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第百五十四條　遞信大臣ニ於テ船級協會ヲ認定シタルトキ又ハ其ノ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十七章　航海上ノ危險防止

第百五十五條　本章中第百五十一條乃至第百六十九條ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海區域又ハ遠洋區域ヲ航行スルモノニ、其ノ他ノ規定ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テノ船舶ニ之ヲ適用ス

第百五十六條　船舶ハ其ノ搭載シタル救命艇又ハ救命筏ニ左ノ員數ヲ割當ツルニ足ル救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乘組マシムベシ但シ臨時旅客又ハ甲板旅客搭載ノ爲特ニ之ヲ乘組マシムル必要ヲ生ジタルトキハ管海官廳又ハ帝國領事官ノ認可ヲ受ケ當該所要員數ノ一部又ハ全部ヲ減ジ相當ノ技能ヲ有スル船員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一、定員四十人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ二人

二、定員四十一人以上六十一人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ三人
三、定員六十二人以上八十五人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ四人
四、定員八十六人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ五人

前項ノ船員ノ割當員數ニ付テハ事情ニ應ジ船長之ヲ定ム

船長ハ救命艇又ハ救命筏ニ其ノ指揮者トシテ甲板部職員又ハ第一項ニ規定スル船員ヲ配置シ且右指揮者ガ故障アル場合ニ於テ之ニ代リテ指揮スル者ヲ定メ置クベシ

船長ハ前項ノ指揮者ヲシテ其ノ指揮スル救命艇又ハ救命筏ノ乘組員ノ名簿ヲ所持セシムベシ

船長ハ發動機ヲ有スル救命艇ニハ發動機ヲ運轉シ得ル者ヲ、無線電信又ハ探照燈ノ設備ヲ有スル救命艇ニハ其ノ設備ヲ操作シ得ル者ヲ配置スベシ

船長ハ救命艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ使用シ得ルコトヲ確ムル爲甲板部職員ヲ指定シ置クベシ

救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第百五十七條　船長ハ非常ノ出來事ニ對スル船員ノ特別任務ニ付左ノ事項ニ關スル船員ノ擔當ヲ定メ發航前之ヲ記載シタル召集表ヲ作成シ船員室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

一、水密戸、辨等ノ閉鎖
二、救命艇、救命筏及救命浮器ノ艤裝
三、端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ノ卸方
四、前號以外ノ救命艇、救命筏及救命浮器ノ一般準備
五、旅客ノ召集
六、火災ノ消防

召集表ニ於テハ事務部員ニ對シ左ノ事項ニ關スル擔當ヲ指定スベシ

一、旅客ニ警報スルコト
二、旅客ガ著衣シ救命胴衣ヲ適當ニ著用セルコトヲ確ムルコト
三、旅客ヲ集合所ニ集合セシムルコト
四、通路及梯段ニ於ケル秩序ヲ維持シ旅客ノ行動ヲ統制スルコト

召集表ニハ全船員ヲ各員割當ノ救命艇及消防持場ニ呼出ス爲ノ一定ノ信號ヲ記載ス

ベシ

第百五十八條　船長ハ發航前甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ區畫スル水密隔壁ニ取附クル水密蝶番戸ヲ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第百五十九條　機關室内ノ水密隔壁ニ取外シ得ル板戸ヲ設クル船舶ニ在リテハ船長ハ發航前該板戸ヲ其ノ位置ニ取附クルコトヲ要シ航行中ハ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ取外スベカラズ

前項ノ板戸ハ其ノ接合部ガ水密ヲ保ツ樣之ヲ取附クベシ

第百六十條　船長ハ作業上必要アル場合ヲ除クノ外航行中水密隔壁ニ取附クル一切ノ水密戸ヲ閉ヂ置キ之ヲ開キタルトキハ迅速ニ閉ヂ得ル樣常ニ準備シ置クベシ

第百六十一條　船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル何レカノ舷窓ノ下緣ガ發航ノ際ノ吃水線ノ上方ニ於テ同吃水線ヨリ船ノ幅ノ千分ノ二十五ニ一・三七メートルヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ且船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ船長ハ發航前該舷窓ノ在ル甲板間ノ總テノ舷窓ヲ水密ニ閉ヂ且錠ヲ下スコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

船舶ガ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル熱帶ニ在ル場合又ハ熱帶季節ニ季節熱帶ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ一・三七メートルトアルハ之ヲ一・〇六五メートルト爲スコトヲ得

船舶所有者又ハ船長ハ第一項ノ規定ヲ適用スベキ極限ノ平均吃水ノ指定ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル舷窓ハ第一項ニ規定スルモノ以外ノモノト雖モ船長ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ非ザレバ航行中之ヲ開放スベカラズ

第百六十二條　前條第一項ノ場合ニ於テハ船長ハ舷窓ノ鍵ヲ保管シ其ノ他必要ナル處置ヲ爲スベシ

前條第四項ノ舷窓ニ錠ヲ下シタルトキハ船長ハ其ノ鍵ヲ保管スル等其ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ開キ得ザル樣必要ナル處置ヲ爲スベシ

第百六十三條　船長ハ發航前航行中近寄リ難キ場所ニ在ル舷窓及其ノ蓋ヲ水密ニ閉ヅベシ

船長ハ發航前限界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ヲ水密ニ閉ヅルコトヲ要シ航

行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第百六十四條　灰棄筒、芥棄筒其ノ他之ニ類似ノモノニシテ其ノ船内開口ガ限界線下ニ在ルモノニ付テハ之ヲ使用セザルトキハ船長ハ筒ニ取附ケタル自働不還辨及開口ノ蓋ヲ締附ケ置クベシ

第百六十五條　船長ハ端艇操練ノ爲實行可能ナルトキハ毎週一回船員ノ召集ヲ行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行フベシ

端艇操練ヲ行フニ當リテハ異リタル場所ニ備附ケタル救命艇及救命筏ヲ順次ニ使用スベシ

第百六十六條　船長ハ水密戸、舷窓、辨並ニ排水孔、灰棄筒及芥棄筒ノ閉鎖裝置ノ操作ノ操練ヲ毎週一回行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行ヒ爾後航海中少クトモ毎週一回之ヲ行フベシ但シ主横置隔壁ニ於ケル水密ナル動力戸及蝶番戸ニシテ航海中開閉スルコトアルモノハ毎日之ヲ操作スベシ

水密戸、之ニ附屬スル機構及表示器並ニ區畫室ノ水密ヲ保ツニ必要ナル辨ハ航海中少クトモ毎週一回定期ニ之ヲ點檢スベシ

第百六十七條　前二條ニ定ムル操練及點檢ハ船員ガ其ノ任務ヲ完全ニ了解習熟スル樣且救命設備及其ノ附屬具ガ常ニ即時ノ使用ノ爲メ準備モラルル樣之ヲ行フベシ

第百六十八條　船長ハ航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ其ノ初期ニ於テ旅客ノ召集ヲ行フベシ

旅客召集ノ危急信號ハ汽笛又ハ汽角ニ依リ短聲六發以上ノ連發ト之ニ續ク長聲一發トス

前項ノ信號ハ短國際航海ニ從事スル船舶ヲ除クノ外船橋ニ於テ操作セラレ電氣裝置ニ依リ船内ニ普及スル他ノ信號ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス

旅客召集ノ危急信號其ノ他旅客ニ關係アル信號ハ種種ノ國語ヲ以テ其ノ意味ヲ明記シ旅客室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

第百六十九條　船長ハ火災ヲ速ニ發見スル爲有效ナル巡視制度ヲ設クベシ

第百七十條　操舵命令ハ船舶ノ前進中其ノ船首ヲ轉ズル方向ヲ直接ニ示ス語テ使用スベシ

第百七十一條　流氷、委棄物、熱帶暴風雨(「ハリケーン」、「タイフーン」、「サイクロー

ン」及之ト同樣ノ性質ヲ有スルモノ）其ノ他航海ニ直接ノ危險ヲ及ボスモノニ遭遇シタルトキハ船長ハ適當ト認ムル通信方法ニ依リ之ヲ附近ノ船舶及最モ速ニ通信シ得ベキ海岸局ニ通報スベシ

前項ノ通報ハ別ニ告示スル樣式ニ依ルベシ

第百七十二條　無線電信ヲ施設シタル船舶全强風以上ノ風力ヲ感知シタルトキハ之ヲ附近ノ船舶ニ通報スベシ

第百七十三條　船舶ハ重大且急迫ノ危險ニ陷リ即時ノ救助ヲ要スルトキニ限リ警急信號及遭難信號ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外船舶ガ救助ヲ要スルトキ又ハ後ニ警急信號若ハ遭難信號ヲ發スルノ必要アルニ至ルベキコトノ警告ヲ發セントスルトキハ緊急信號ヲ使用スベシ

警急信號又ハ遭難信號ヲ發シタル後救助ヲ要セザルコトヲ認メタルトキハ該船舶ハ直ニ其ノ旨ヲ一切ノ關係局ニ通報スベシ

第百七十四條　船長無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタルトキハ能フ限リノ速力ヲ以テ遭難者ノ救助ニ赴クベシ但シ遭難者ノ所在ニ到達シタル船舶ヨリ救助ノ必要ナキ旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

遭難船舶ノ船長ハ遭難信號ニ應答シタル船舶ノ船長ト能フ限リ協議シタル上適當ト認ムル船舶ヲ選定シ救助ヲ要請スルコトヲ得

前項ニ依リ救助ヲ要請セラレタル船舶ノ全部ガ其ノ要請ニ應ジ救助ニ赴ク旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ他ノ船舶ハ救助ニ赴クコトヲ要セズ

無線電信ニ依ル遭難信號ヲ接受シタル船舶ノ船長ハ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ救助ニ赴クコト能ハザルカ又ハ特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クヲ不合理若ハ不必要ト認メ救助ニ赴カザルトキハ直ニ其ノ旨遭難船舶ノ船長ニ通報スベシ

第百七十五條　北大西洋横斷ノ航海ニ定期ニ船舶ヲ就航セシムル船舶所有者ハ其ノ協定シタル航路中船舶ヲシテ採ラシムベキ常用ノ航路及其ノ變更ニ付廣告ヲ爲スベシ

第十八章　雜則

第百七十六條　國際航海ニ從事スル船舶ノ船長ハ旅客船ニ在リテハ左ノ各號、總噸數千六百噸以上ノ船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノニ在リテハ第六號ニ掲グル事項ヲ航海日誌ニ記載スベシ

一、第百七十四條ニ定ムル遭難者ノ救助ニ赴カザリシトキハ其ノ事由

二、第百五十八條、第百五十九條、第百六十一條又ハ第百六十三條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル水密蝶番戸、取外シ得ル板戸、舷窓、舷門、載貨門又ハ載炭門ヲ碇泊中開閉シタルトキハ其ノ日時

三、甲板間ニ於ケル石炭庫ヲ區畫スル水密隔壁ニ設クル水密戸ヲ開閉シタルトキ及第百五十九條若ハ第百六十條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル取外シ得ル板戸又ハ水密戸ヲ航行中緊急ノ必要上又ハ船舶ノ作業上開閉シタルトキハ其ノ日時

四、第百六十六條ニ定ムル水密戸等ノ操作ノ操練及之ガ點檢ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時及點檢ニ當リテ發見シタル缺陷

五、第百六十五條ニ定ムル端艇操練ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時又之ヲ行フコトヲ得ザリシトキハ其ノ事由

六、航行中無線電信ノ補助電源ノ全能力ヲ維持シタルコト及警急自働受信機ヲ試驗シタルコト

第百七十七條　船舶檢査證書ノ有效期間内ニ於テ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨管海官廳ニ屆出ヅベシ

一、入渠又ハ上架セントスルトキ（漁船ノ上架ヲ除ク）

二、船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナルナル設備若ハ屬具ニ損傷ヲ生ジタルトキ又ハ之ヲ修繕若ハ變更セントスルトキ

第百七十八條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタルモノ又ハ同日以後旅客船ニ變更シタルモノニ付テハ船舶所有者ハ之ヲ本令施行後初メテ國際航海ニ使用スルニ先チ傾斜試驗ヲ行ヒ復原性ニ關スル要項ヲ決定スベシ但シ復原性ニ關スル十分ノ資料ヲ有シ管海官廳ニ於テ更ニ傾斜試驗ヲ行フノ必要ナシト認メタル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ傾斜試驗ハ船舶ノ空艙狀態ニ於ケル重心ノ位置ヲ算定シ得ル狀態ニ於テ之ヲ行フベシ

傾斜試驗ヲ行ハントスルトキハ之ヲ管海官廳ニ屆出ヅベシ

第百七十九條　前條ノ船舶ニハ其ノ復原性ニ關スル要項ヲ記載シタル書類ヲ備フベシ

前項ノ書類ハ少クトモ左ノ事項ヲ記載シタルモノナルコトヲ要ス

一、傾斜試驗ノ成績

二、空艙狀態ニ於ケル船舶ノ重心ノ位置

三、横「メタセンター」ノ位置ヲ示ス曲線圖（最高區畫滿載吃水線迄ノ各吃水ニ對シ龍骨ノ上面ヨリ横「メタセンター」ニ至ル垂直距離ヲ示スモノ）

第百八十條　船舶安全法第十二條第一項ノ證票（第十四號書式）ハ船舶所有者又ハ船長ノ請求アルトキハ之ヲ示スベシ

第百八十一條　船舶ノ檢査ヲ受クルトキハ檢査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ別表第二號ニ定ムル檢査手數料ヲ納付スベシ

檢査申請者ノ都合ニ依リ檢査ノ申請ヲ取下ゲ又ハ船舶ガ檢査ヲ要セザルモノト爲リタル場合ト雖モ檢査著手後ナルトキハ檢査手數料ヲ徵收ス

第百八十二條　船舶檢査證書、特殊船檢査證書又ハ其ノ英譯書ノ交付、再交付若ハ書換ヲ受ケントスルトキ、合格證明書又ハ回航認可證書ノ交付若ハ再交付ヲ受ケントスルトキ又ハ船舶檢査手帖ノ再交付ヲ受ケントスルトキハ別表第三號ニ定ムル手數料ヲ納付スベシ

第百八十三條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

檢査手數料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數、檢査ノ種類、旅客船ト旅客船ニ非ザルモノトノ區別及手數料額ヲ記載スベシ

前項ニ掲ゲル事項ノ外臨時檢査ヲ受ケタル場合又ハ休暇日ニ於テ檢査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回數ヲ、船體ノ製造檢査ヲ受ケタル場合ニハ船舶ノ長サヲ、機關ノ製造檢査ヲ受ケタル場合又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケタル場合ニハ往復動汽機ニ付テハ汽筒ノ徑ノ和及單働式又ハ複働式ノ別ヲ「タービン」汽機ニ付テハ軸馬力ヲ、汽罐ニ付テハ受熱面積ヲ記載スベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依リ船舶ノ機關ノ部分品ノ檢査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回數ノミヲ記載スベシ

第百八十四條　船舶檢査執行地外ニ於テ管海官廳ノ檢査ヲ受クルトキハ檢査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ檢査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

船舶法施行細則第五十三條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル檢査官吏ノ檢査ヲ受ケタルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ通算ス

第百八十五條　本章ノ規定ニ依ル手數料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セズ

第十九章　罰則

第百八十六條　船舶所有者又ハ船長第四十六條、第百二十四條、第百三十六條、第百五十六條第一項又ハ第百七十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十七條　船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一、第四十七條第一項第二項、第五十一條、第八十二條第二項、第八十三條第三項、第百二十二條第二項、第百三十二條、第百四十五條又ハ第百五十七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二、第百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ提出アリタル場合ニ於テ申立ノ事項ガ船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナルニ拘ラズ第百四十五條第一項ノ規定ニ依ル措置ヲ執ラザリシトキ

附則

第百八十八條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百八十九條　船舶檢査法施行細則、船舶滿載吃水線法施行規則、船舶無線電信施設法施行規則、船舶檢査規程、木船檢査規程、漁船檢査規程及船舶滿載吃水線規程ハ之ヲ廢止ス

第百九十條　船舶安全法第三十三條ニ揭グル船舶ハ同法第三十六條第一項ノ檢査ヲ受クル迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第百九十一條　船舶安全法第二條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニシテ本令施行ノ際現ニ船舶檢査法ニ依リ檢査申請中ノモノニ付テハ檢査ヲ行ハズ

第百九十二條　昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ旅客船ニシテ國際航海ニ從事スベキモノ又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ本令ニ依リ檢査ヲ行フ

昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航

海ニ從其スベキモノニ付テハ其ノ無線電信施設ニ關シ本令ニ依リ檢査ヲ行フ

第百九十三條　船舶安全法第三十六條第一項ノ規定ニ依ル檢査ハ左ノ各號ニ依ル

一、船舶檢査法ニ依リ定メタル特別檢査ノ有效期間ガ滿了シタル船舶及同法ニ依リ特別檢査ヲ行ハザル船舶ノ受クベキ檢査ニ付テハ定期檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

二、前項ノ有效期間ガ滿了セザル船舶ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付行フ檢査ニ付テハ定期檢査ニ關スル規定ヲ準用ス

三、前二號ニ該當セザル船舶ノ受クベキ檢査ニ付テハ中間檢査ニ關スル規定ヲ準用ス但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキハ檢査ノ方法及準備ニ付第一號ニ依ルコトヲ得

船舶安全法第三十三條ニ揭グル船舶前項ノ檢査ヲ受ケ滿載吃水線ヲ標示スベキ場合ニ於テ特ニ急速ノ發航ヲ必要トスル事情アルトキハ當該管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指定スル時期迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ得

第百九十四條　國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ船舶安全法第三十五條ニ揭グルモノハ同法ニ依リ檢査ヲ受クル迄第百五十六條ノ規定ニ拘ラズ救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乘組マシメザルコトヲ得

第百九十五條　船舶檢査法ニ依リ定メタル船舶ノ資格ガ第九十二條ノ表ニ揭グル船舶ノ長サ又ハ速力ニ依リ變更ヲ要スル場合ト雖モ當該船舶ノ用途其ノ他ノ事情ニ依リ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認メタルトキハ當該船舶ノ現狀ニ變更ナキ限リ仍從前ノ資格ヲ存續セシムルコトヲ得

第百九十六條　鋼船ノ船體ニ關シ施設スベキ事項及其ノ標準ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ內仍造船規程第一編ノ定ムル所ニ依ル

漁船特殊規則

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル漁船ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得

一、總噸數二百噸未滿ノ捕鯨船

二、專ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル總噸數二百噸未滿ノ漁船

三、總噸數千六百噸未滿ノ推進機關ヲ有セザル漁船

第二條　漁船ノ從業制限ハ第一種、第二種及第三種ノ三種トス

第三條　第四條各號ニ揭ゲル業務ヲ除クノ外左ニ揭ゲル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第一種トス

一、一本釣漁業

二、延繩漁業

三、流網漁業

四、刺網漁業

五、旋網漁業

六、捧受網漁業
七、投銛漁業
八、曳縄漁業
九、機船底曳網漁業及其ノ他ノ底曳網漁業（汽船「トロール」漁業ヲ除ク）
十、前各號ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各號ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務

第四條　左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第二種トス
一、鰹竿釣漁業
二、鮪竿釣漁業
三、鱈一本釣漁業
四、鮪延縄漁業
五、旗魚延縄漁業
六、鮫延縄漁業
七、鱈延縄漁業
八、大鮃延縄漁業
九、機船底曳網漁業（手繰網又ハ打瀬網ヲ使用スルモノ）
十、前各號ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各號ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務

第五條　母船式漁業ニ從事スル母船及左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第三種トス
一、汽船「トロール」漁業
二、汽船捕鯨業
三、專ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル業務
四、漁業ニ關スル試驗、調査、指導、練習又ハ取締業務

第六條　第二種ノ從業制限ヲ有スル漁船ハ第三條各號ニ掲グル業務ニ從事スルコトヲ得

第七條　管海官廳漁船ノ從業制限ヲ定ムルニ當リ必要アリト認ムルトキハ漁船ノ種類、大小、構造又ハ設備ニ應ジ業務ノ種類ヲ限定スルコトヲ得

第八條　漁船檢査證書ノ有效期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者又ハ漁長ハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

一、已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ漁船ヲ其ノ從業制限以外ノ從業制限ニ該當スル業務ニ從事セシムルトキ（第六條ニ該當スル場合ヲ除ク）

二、第一種ノ從業制限ヲ有スル漁船又ハ第二種若ハ第三種ノ從業制限ヲ有スル長サ二十五メートル未滿ノ漁船ヲ漁業ニ使用セズシテ船舶安全法施行地、朝鮮又ハ樺太ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ヲ爲サシムルトキ

第九條　漁船檢査證書ノ有效期間内ニ於テ漁船ノ從業制限ヲ變更セントスルトキハ申請書ニ新舊從業制限ヲ列記シ船舶檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第十條　漁船ニ在リテハ船舶安全法施行規則第四十七條ノ規定ニ拘ラズ長サ七十メートル以上ノモノニ限リ專ラ漁獵又ハ漁獲物ノ保藏若ハ製造ニ從事スル者ノ室ト其ノ他ノ者ノ室トハ常ニ區別シ置クベシ

第十一條　汽罐ヲ有セザル長サ二十五メートル未滿ノ漁船ニ付テハ漁船檢査證書ノ有效期間ハ三年以内トス

前項ノ漁船ハ中間檢査ヲ受クルコトヲ要セズ

第十二條　長サ七十メートル以上ノ漁船ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スル母船（特殊漁船）ガ母船式漁業ニ從業スル爲其ノ仕立港ヲ發航セントスルトキハ特殊船檢査ヲ行フ但シ特殊船檢査證書ノ有效期間内ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

漁船特殊規程

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ動力漁船トハ推進機關ヲ有スル漁船ヲ謂ヒ第一種漁船、第二種漁船又ハ第三種漁船トハ各從業制限第一種、第二種又ハ第三種ヲ從業制限トスル漁船ヲ謂ヒ運搬漁船トハ漁船特殊規則第五條第三號ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ヲ謂フ

第二條　本令ニ該當セザル漁船ノ構造、材料及其ノ寸法並ニ設備ト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一效力ヲ有スト認ムル場合ニ於テハ之ヲ合格ト爲スベシ

第三條　漁船ノ構造、材料及其ノ寸法並ニ設備ニ付テハ管海官廳當該漁船ノ種類、大小、從業ノ期間等ヲ考慮シ適當ニ斟酌シテ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第四條　發動機ニ依リ推進スル長サ二一メートル以上ノ漁船ニシテ鰹若ハ鮪ノ竿釣漁業又ハ鮪、旗魚、鮫若ハ大鮃ノ延繩漁業ニ從事スルモノニハ其ノ算式ニ依リ算定シタル分量ノ主機關用燃油ヲ容ルル足ル燃油庫ヲ設備スベシ

D^2NC リットル

Dハ發動機ノ氣筒ノ徑（糎ニテ）
Nハ發動機ノ氣筒ノ數
Cハ常數ニシテ左表ニ依ル

船舶ノ長サ（米）	「デイーゼル」式單働發動機ナルトキ 二衝程式	「デイーゼル」式單働發動機ナルトキ 四衝程式	「デイーゼル」式以外ノ單働二衝程式發動機ナルトキ
二一以上　二三未滿	七・五二	五・二六	四・九九
二三〃　二五〃	九・四〇	六・五八	六・二四
二五〃　三〇〃	一〇・八一	七・五七	七・一八
三〇〃　三三〃	一一・七五	八・二三	七・八〇
三三〃　三六〃	一二・六九	八・八八	八・四二
三六〃　四〇〃	一四・一〇	九・八七	九・三六
四〇〃　四五〃	一六・四五	一一・五二	一〇・九二
四五〃　五〇〃	一八・八〇	一三・一六	一二・四八
五〇〃　五五〃	二一・一五	一四・八一	一四・〇四
五五〃	二三・五〇	一六・四五	一五・六〇

第二章　船體

第一節　通則

第五條　主機關用燃油槽ヲ上甲板以上ノ場所ニ設クルトキハ其ノ容量ハ全燃油庫ノ容量ノ百分ノ十五ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條　甲板上ニ設クル燃油槽又ハ活魚槽ハ甲板ニ特ニ堅固ニ取附クベシ

第七條　運搬漁船及特殊漁船ヲ除クノ外漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クルコトヲ得ズ

第八條　動力漁船ニ非ザル漁船ニハ起倒シ得ベキ檣ヲ用ウルコトヲ得ズ

第九條　舷墻ノ高サハ一一〇センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ各舷墻柱又ハ防撓材ノ間ニ於テ舷墻上部ニ十分ナル面積ノ無蓋開口ヲ設クルトキハ適當ニ舷墻ノ高サヲ增加スルコトヲ得

第十條　漁船ノ舷側ニ設クル釣臺又ハ張出甲板ハ十分ニ排水シ得ル構造ト爲スベシ

第十一條　石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ニ於ケル隔壁其ノ他船體ノ部分木製ナルトキハ之ニ金屬板ヲ張リ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ノ豫防ヲ爲スベシ

第十二條　暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル艙口、機關室口、載炭口、出入口、天窓、通風器等ノ諸口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ニ付テハ緣材ノ甲板上ノ高サヲ左表ニ掲グルモノ以上ト爲スベシ但シ直接波浪ヲ受ケザル場所ニ於ケルモノ又ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ緣材ノ高サヲ減ジ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

漁船ノ種別		緣材ノ甲板上ノ高サ（糎）
第一種漁船又ハ捕鯨船		一五
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨船ヲ除ク）	長サ二五米未滿ノモノ	二三
	長サ二五米以上ノモノ	三〇

第十三條　艙口ニハ堅牢ナル蓋板又ハ覆蓋ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ベキ樣覆布及適當ノ締具ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

第十四條　暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル機關室口ニ付テハ圍壁ノ甲板上面ヨリノ高サヲ左表ニ掲グルモノ以上ト爲スベシ

漁船ノ種別		圍壁ノ甲板上ノ高サ（糎）
第一種漁船又ハ捕鯨船		四五
第二種漁船又ハ第三種漁船（捕鯨ヲ除ク）	長キ二五米未滿ノモノ	六〇
	長サ二五米以上ノモノ	九〇

第十五條　暴露甲板ノ機關室口圍壁ノ天窓、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及覆布並ニ適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルベキ裝置ヲ爲スベシ但シ管海官廳ニ於テ水密ト爲スベキ必要ナシト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　前四條ノ規定ハ特殊漁船及總噸數百五十噸以上ノ運搬漁船ニハ之ヲ適用セズ

前項ニ掲グル漁船ノ甲板口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ノ緣材ノ高サ並ニ機關室口圍壁ノ高サニ付テハ當該船舶ヲ第二級船ト看做シ木船構造規程又ハ造船規程及船舶滿載吃水線規程ノ規定ヲ適用ス

第二節　木製漁船

第十七條　第一種漁船又ハ長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ內龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ規定ノ寸法ト等シク爲スコトヲ得

第十八條　龍骨ノ截面積ガ船ノ首尾兩端ニ於ケルモノヲ除クノ外龍骨及內龍骨ノ規定ノ截面積ノ合計以上ナルトキハ內龍骨ヲ省略スルコトヲ得

第十九條　船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ三倍迄減ズルコトヲ得

第二十條　舵心材頂部ノ舵柄取附部ヲ角形ト爲ス場合ニ於テモ其ノ截面積ハ特ニ之ヲ增加セザルモ妨ナシ

第二十一條　二材合セ肋骨ノ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十二條　船ノ中央部ニ於ケル單材肋骨ノ肋根材ノ長サハ船ノ幅ノ二分ノ一迄、其ノ他ノ肋材ノ長サハ船ノ幅ノ四分ノ一迄減ズルコトヲ得但シ衝接又ハ嵌接ノ數ハ五箇以上ト爲スコトヲ得ズ

相隣接スル單材肋骨ノ衝接又ハ嵌接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十三條　船底ノ形狀銳尖ナル漁船ニ在リテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムル場合ニ於テハ適當ナル副龍骨ヲ龍骨ノ上面ニ取附ケ其ノ上面ニ鐵製又ハ木製ノ根曲材ヲ附シ兩舷ノ肋根材ヲ連結スベシ此ノ場合ニ於テハ內龍骨及側內厚板ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條　活魚艙ニ縱通隔壁ヲ設ケ該隔壁ノ下部ニ縱通材ヲ取附ケ之ヲ活魚艙ノ前後ニ二肋骨間延長シ活魚艙兩端ノ肋骨ノ寸法ヲ增シ且該部外板ノ厚サヲ增ストキハ其ノ部分ニ於テ肋骨ノ心距及外板ノ幅ヲ增加シ梁ノ寸法ヲ輕減シ且內龍骨、側內厚板及內張板ヲ省略スルコトヲ得

第二十五條　彎曲部縱通材ノ船ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十六條　彎曲部角形ナル漁船ニ在リテハ其ノ部ニ外部彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ截面積ヲ六五平方センチメートル以上ト爲スベシ

第二十七條　梁壓材ノ截面積ハ木船構造規程ニ定ムルモノノ五分ノ四迄減ズルコトヲ得

第二十八條　甲板梁ノ心距ガ規定ノ心距ヨリ小ナルトキハ其ノ割合ニ應ジ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得

梁柱ノ數ヲ增ストキハ適當ニ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得

縱通隔壁アル場合ニ於テハ梁柱ハ其ノ取附ヲ適當ニ省略スルコトヲ得

第二十九條　幅五メートル未滿ノ漁船ニ於テハ甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ハ木船構造規程第七十八條ノ規定ニ拘ラズ半梁一本置ニ梁曲材ノ取附ヲ省略シ其ノ他ノ半梁ハ堅梁曲材ヲ以テ船側ニ固著シ其ノ他端ハ横梁曲材ヲ以テ縱梁ニ固著セシムルコトヲ得

第三十條　幅五メートル未滿ノ漁船ニ於テ梁下縱通材ヲ設クルトキハ梁柱ハ甲板梁ニ本置ニ設クルニ止ムルコトヲ得但シ甲板室、斜檣、揚錨機、揚貨機其ノ他ノ重量物ヲ支フル梁ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條　第二數七〇〇未滿ノ漁船ニ於テハ外部腰板ヲ設クルコトヲ要セズ

第三十二條　第二數二五〇未滿ノ漁船ニ於テハ外板ノ厚サヲ增シ且彎曲部縱通材ノ幅ヲ增ストキハ內張板ヲ設クルコトヲ要セズ

第三十三條　木船構造規程第百十三條第一項ノ規定ハ長サ四メートル未滿ノ機關室口ニハ之ヲ適用セズ

第三十四條　第二數三〇〇未滿ノ漁船ノ側內厚枚ハ木船構造規程第百二十八條ノ規定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ敲釘及打込釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十五條　彎曲部縱通材ノ各材ノ幅一三センチメートル未滿ナルトキハ木船構造規程第百三十條ノ規定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十六條　梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ之ヲ五箇迄減ズルコトヲ得

第三十七條　第二數三五〇未滿ノ漁船ニ於テハ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル場合ト雖モ梁曲材ノ側腕ニ用ウル敲釘ハ之ヲ外板迄貫通セシムルコトヲ要セズ

第三十八條　外板ノ固著釘ノ數ハ外板ノ幅二二センチメートル未滿ナルトキハ肋骨每

ニ二箇迄ニ、幅二七センチメートル未滿ナルトキハ肋骨毎ニ三箇迄ニ減ズルコトヲ得

第三十九條　外部彎部曲縱通材ハ肋骨毎ニ一箇以上ノ敲釘ヲ以テ固著セシムベル

第四十條　動力漁船ニ在リテハ「ジブブーム」、「フライインゲジブブーム」及「ブーム」ノ從徑ハ長サ一メートルニ付一八ミリメートル迄ニ、「スクーナー」ノ「ガフ」ノ徑ハ長サ一メートルニ付一六ミリメートル迄ニ減ズルコトヲ得

第三節　鋼製漁船

第四十一條　鋼製漁船ノ構造及材料ノ寸法ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外造船規程中重構船ノ規定ニ依ル

第四十二條　第一種漁船及長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ管海安廳ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノヲ除クノ外材料試驗ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條　第一種漁船、捕鯨船捕鯨船又ハ長サ二五メートル未滿ノ漁船ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ左ノ各號ノ限度迄之ヲ輕減スルコトヲ得

一、正肋材ノ横邊助、副肋材ノ兩邊及肋骨ノ深サヲ規定ノ寸法ヨリ一三ミリメートル減少スルコト

二、船底ノ傾斜急ナル漁船ニ在リテハ肋板ノ高サヲ增加スルトキハ造船規程別表ニ掲グル翼内龍骨用山形材二箇ヲ以テ中心線内龍骨ヲ構成シ且副肋材ヲ彎曲部ニ達セシムルニ止ムルコト又船側縱通材ニ斷切板ヲ附スルカ又ハ船側縱通材ヲ二重山形材ト爲ストキハ翼内龍骨ニ斷切板ヲ附セザルコト

三、梁ヲ肋骨毎ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ正肋材ノ寸法ト等シク梁ヲ肋骨一本置ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ右ニ準ジ相當ニ輕減スルコト又梁ノ肘板ノ幅及深サハ梁ノ深サノ三倍トシ厚サハ梁ノ厚サニ等シクスルコト

四、梁上側板、梁上帶板及翼内龍骨用山形材ノ截面積ヲ各四分ノ一減少スルコト

五、外板ノ厚サヲ造船規程別表ニ掲グルモノヨリ〇・五ミリメートル減少スルコト

第四十四條　第二種漁船又ハ第三種漁船ノ活魚艙ハ其ノ周壁ヲ鋼製ト爲スコトヲ要シ其ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ造船規程第一編第百四十二條乃至第百四十四條、第百四十八條、第百四十九條及第百六十一條ヲ準用ス

第四十五條　第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ノ活魚艙、冷藏艙及

氷艙ノ頂部ノ甲板ハ水密横造ノ鋼甲板ト爲スベシ

第四十六條　第一種漁船、捕鯨船及運搬漁船ヲ除クノ外長サ二五メートス以上ノ漁船ニ付テハ造船規程第一編第百二十九條但書ノ規定ヲ適用セズ

第三章　設備

第四十七條　特殊漁船ニハ最大搭載人員ヲ收容スルニ要スル端艇及之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ他ノ揚卸裝置ヲ以テ端艇鈎ニ代フルコトヲ得

第四十八條　前條ノ漁船ヲ除クノ外門サ二〇メートル以上二五メートル未滿ノ漁船ニハ容積二立方メートル以上ノ端艇ヲ、長サ二五メートル以上ノ漁船ニハ容積二・八三立方メートル以上ノ端艇ヲ備フベシ但シ端艇ノ容積ハ船舶ノ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル程度ニ止ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ備フベキ容積二・八三立力メートル以上ノ端艇ニ付テハ適當ノ揚卸裝置ヲ備フルコトヲ要ス

長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ端艇ニ代用スルコトヲ得

長サ二五メートル以上三〇メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ端艇ノ容積ノ一部ヲ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ代用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ以テハ救命筏又ハ救命浮器ハ其ノ定員一人ヲ以テ、救命浮環ハ一箇ヲ以テ端艇ノ容積〇・二八三立方メートルニ相當スルモノトス

第四十九條　第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ最大搭載人員ト同數ノ救命胴衣ヲ備フベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ鰹竿釣又ハ鮪竿釣漁船ニ在リテハ最大搭載人員ノ四分ノ一迄、第五十五條第二項ニ掲グル漁船ニ在リテハ最大搭載人員ノ二分ノ一迄救命胴衣ノ數ヲ減ズルコトヲ得

第五十條　漁船ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

漁船ノ種類	救命浮環	救命焰
第一種漁船	二	一
第二種及第三種漁船	四	二

第五十一條　第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ船舶設備規程第三十三條ノ規定ヲ準用ス

前項以外ノ漁船ノ普通艇ニハ船舶設備規程第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十二條　「アムモア」式冷却機ノ設備アル漁船ニハ「アムモニア」防毒「アスク」二箇以上ヲ備フベシ

第五十三條　漁船ノ居室ニハ船舶設備規程第八十五條及第八十七條第二項ハ之ヲ準用セズ

第五十四條　居室ノ高サ一・六メートル以上アル場合ヲ除クノ外居席ヲ二層ト爲スコトヲ得ズ

第五十五條　漁船ノ最大搭載人員ハ各居室ノ定員ノ和トス

各居室ノ定員ハ左ノ各號ノ計算法ニ依リ算出シタル員數ノ中小ナルモノトス

一、居室ノ容積ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル員數

二、寢臺ヲ備フル室ニ付テハ寢臺ノ數ト寢臺外ノ場所ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トノ和

三、寢臺ヲ備ヘザル室ニ付テハ居室ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數

漁船ノ種類		單位面積（平方米）	單位容積（立方米）
第一種漁船		〇・四五	—
第二種漁船	鰹竿釣又ハ鮪竿釣漁船	〇・三〇	〇・六〇
	前欄ニ掲グルモノ以外ノ漁船	〇・六〇	一・〇〇
第三種漁船		〇・八五	一・五五

長サ二五メートル未滿ノ漁船又ハ長サ五〇メートル未滿ノ母船ニ付テハ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ前項ノ單位面積又ハ單位容積ヲ適當ニ輕減スルコトヲ得

漁業ニ關スル試驗、調査、指導又ハ練習ニ從事スル漁船ノ鰹竿釣又ハ鮪竿釣ヲ行フ

場合ニ於ケル最大搭載人員ノ算定ニ付テハ第一項ノ表中鰹竿釣又ハ鮪竿釣漁船ノ率ニ依ルコトヲ得

第五十六條　特殊漁船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ適當ナル病室ヲ設クベシ

第五十七條　特殊漁船ニハ第一號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衛生用品ヲ備フベシ

第五十八條　特殊漁船ニハ其ノ搭載セル人員ニ對シ出漁期間ニ應ジ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ但シ仲積船ニ依リ操業ノ場所ニ於テ食料又ハ飲用水ノ補給ヲ受クルコトヲ得ル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ備フベキ食料又ハ飲用水ノ量ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五十九條　艤裝數ノ算定ニ付テハ鋼製動力漁船ハ之ヲ鋼製汽船ト看做ス

第六十條　漁船ニハ其ノ艤裝數ニ應ジ動力漁船ハ船舶設備規程第四號表ニ、動力漁船ニ非ザル漁船ハ同規程第五號表ニ定ムル錨、錨鎖及索ヲ備フベシ

第六十一條　第一種漁船ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨三箇ヲ備フベキ場合ト雖モ其ノ數ヲ二箇ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨ノ錨量ハ表ニ掲グル單量以上、他ノ一箇ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ

第六十二條　長サ二五メートル未滿ノ漁船ハ大錨ノ總錨量ガ規定ニ依ル量ヲ下ラザルトキハ其ノ錨數ヲ增シ單量ヲ減ズルコトヲ得但シ一箇ノ錨量ハ表ニ掲グル大錨ノ單量ノ二分ノ一ヲ下ルベカラズ

第六十三條　第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ニ備フル錨（錨銲ヲ含ミタル重量　七六・二キログラム以下ノモノヲ除ク）錨鎖及鋼索ハ船舶設備規程第百二十八條ニ依ル試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第六十四條　長ニ二五メートル未滿ノ漁船ニハ日本形錨ヲ代用スルモ妨ナシ

前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ

日本形錨ノミヲ備フル漁船ニ在リテハ錨量ハ船舶設備規程第六號表ニ定ムルモノノ十分ノ九以上ト爲シ錨索ハ同表ニ定ムルモノヲ備フベシ

大錨ヲ除キ其ノ他ノ日本形錨ニ對スル錨索ノ長サハ船舶設備規程第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ等シクシ其ノ徑ハ錨量ニ應ジ船舶設備規程第七號表ニ定ムル所ニ依

ルベシ

第六十五條　長サ六〇メートルヲ超ユル動力漁船ニハ動力ニ依ル操舵装置ヲ備フベシ

第六十六條　漁船備フベキ航海用具其ノ他ノ屬具ハ第三號表ニ定ムル所ニ依ル

電氣船燈ヲ常用スル漁船ニ在リテハ第三號表ニ定ムル所ニ依リ豫備燈ヲ要セザル場合ト雖モ各電氣船燈ニ對シテ豫備ノ油船燈ヲ備フベシ

第六十七條　油船燈ヲ備フル漁船ニ於テハ舶燈一種ニ付第一種漁船又ハ長サ二一メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ三箇以上、其ノ他ノ漁船ニ在リテハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備フベシ

第一種漁船ヲ除クノ外長サ二一メートル以上ノ漁船ニ在リテハ綠及紅ノ挿入稍子ヲ使用スル舷燈ヲ備フルトキハ綠、紅各二箇ノ豫備挿入稍子ヲ備フベシ

第六十八條　第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ其ノ從業場所ノ海圖ヲ備フベシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノ又ハ管海官廳ニ於テ適當ト認メタルモノヲ使用スベシ

第六十九條　帆檣ヲ有スル漁船ニハ檣ニ相當スル帆一揃及左ノ豫備帆ヲ備フベシ

豫備帆ノ種類	數	備考
「フオール、ステースル」	一	「カッター」、「ケッチ」又ハ「スループ」ノ帆裝ヲ有スルモノハ「フオール、ステースル」一枚ノミ又「ラッガー」ノ帆裝ヲ有スルモノハ「フオースル」一枚ノミト爲スコトヲ得
「フ　オ　ー　ス　ル」	一	

第四章　機關

第七十條　船舶機關規程ニ定ムル乙種機關ハ左ノ各號ニ掲ゲル漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

一、「トロール」汽船

二、捕鯨船

三、母船ニシテ動力ニ依ル漁獵物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ

四、長サ三〇メートル以上ノ母船ニシテ動力ニ依ル漁獵物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有セザルモノ

五、長サ三〇メートル以上ノ第二種漁船

六、長サ三〇メートル以上ノ運搬漁船

七、漁船特殊規則第五條第四號ニ掲ゲル業務ニ從事スル漁船ニシテ長サ三〇メートル以上ノモノ

第七十一條　船舶機關規程ニ定ムル丙種機關ハ長サ三〇メートル未滿ノ第一種漁船ノ外漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七十二條　發動機ヲ備フル木製漁船ノ推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ徑ハ船舶機關規程ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ同規程第百四十三條乃至第百四十六條ノ發動機ニ付テハ一・〇七ヲ「デイーゼル」式發動機ニ付テハ一・〇五ヲ乘ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第七十三條　備品ハ機關ノ種類ニ應ジ第四號表又ハ第五號表ニ定ムル所ニ依リ之ヲ機關室又ハ船内適當ノ場所ニ備フベシ

附則

第七十四條　本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十五條　本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ノ船體又ハ機關ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ漁船ノ大小、業務ノ種類等ヲ考慮シ差支ナシト認ムルトキハ特ニ之ヲ合格ト爲スコトヲ得但シ本令施行ノ日ヨリ三年以後ニ於テ漁船ニ新ニ備附クル機關ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條　本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ第四條、第五條、第七條、第九條、第十二條、第十四條、第四十四條乃至第四十六條及第五十六條ノ規ニ依ラザルコトヲ得

第七十七條　本令施行前製造シタル漁船ニシテ引續キ從前ノ業務ニ從事スルモノニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備、航海用具其ノ他ノ屬具又ハ機關備品ヲ備フルコト困難ナリト認メタルトキハ本令施行後二年以内ニ於テ行フ最後ノ中間檢査又ハ定期檢査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第七十八條　本令施行ノ際現ニ存スル居室ニ付テハ第五十四條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十九條　本令施行ノ際現ニ漁船ニ備フル錨、錨鎖又ハ鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ第六十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第三號表　屬具表

屬具名稱＼漁船ノ種類	第三種漁船 長サ五十メートル以上	第三種漁船 長サ五十メートル未滿	第二種漁船 長サ二十一メートル以上	第二種漁船 長サ二十一メートル未滿	第一種漁船 動力漁船	第一種漁船 動力ヲ有セザル漁船	摘要
號鐘	一	一	一	一	一	一	
時計	二	一	一	一	一	一	
雙眼鏡	一	一	一	一	一	一	
晴雨計	一	一	一	一	一	一	
海水用寒暖計	一	一	一	一	一	一	
手用測程具	一	一	一	一	一	一	
砂漏計	一	一	一	一	一	一	
測程機械	二	一	一	一	一	一	動力ヲ有セザル漁船及總噸數百噸未滿ノ運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
手用測鉛	二	一	一	一	一	一	測鉛ノ重量ハ手用測鉛ニ在リテハ三・二瓩以上深海測鉛ニ在リテハ一二・七瓩以上ナルコトヲ要ス
深海測鉛	一	一	一	一	一	一	測鉛ニ附スル線ノ長サハ手用測鉛ニ在リテハ四六メートル以上深海測鉛ニ在リテハ二三〇メートル以上、ナルコトヲ要ス
時辰儀	一	一	一	一	一	一	總噸數三十噸未滿ノ動力ヲ有セザル漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
							總噸數千噸未滿ノ母船及運搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

檣燈		六分儀	航海暦	羅針儀		
常用						
二		一	一	二	二箇ヲ有スルモノニ在リテハ一箇ハ天象岬角ヲ測ル得ベキ器具ヲ備フルコトヲ要ス	總噸數二百噸未滿ノ漁船ハ常用燈トシテ甲種二箇以上ヲ增備スベシ豫備燈ハ油船燈ト爲スコトヲ要ス
一		一	一	二	總噸數二百噸未滿ノモノハ一箇ト爲スモ妨ナシ	總噸數四十噸以上ノ動力漁船ニハ甲種檣燈ヲ備ヘ總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ甲種又ハ乙種檣燈ヲ備フベシ
一		一	一	一		曳船ニ從事スル動力漁船ハ常用燈トシテ甲種檣燈二箇以上ヲ增備スベシ豫備燈ハ油船燈ト爲スコトヲ要ス
一		一	一	一		動力ヲ有セザル漁船及總噸數四十噸以上ノ動力漁船ニハ甲種舷燈ヲ備フベシ
一		一	一	一		總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ甲種又ハ乙種舷燈ヲ備フベシ但シ甲種兩色燈一箇ヲ以テ代用スルコトヲ得豫備舷燈ハ油船燈ト爲スコトヲ要ス
一		一	一	一		總噸數四十噸未滿ノ漁船ニハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ヲ以テ代用スルコトヲ得

舷燈		船尾燈
常用	豫備	
一對	二	一
一對	一	一
一對	一	一
一對	一	一
一對	一	一
一對	一	一
一對	一	一

霧中號角	黑球	漁業燈	碇泊燈	
一	二	一揃	二	碇泊燈ハ甲種、乙種又ハ丙種白燈ナルコトヲ要ス 四五・七メートル以上ナルトキハ碇泊燈二箇ヲ備フベシ
一	二	一揃	一	
一	二	一揃	一	
一	二	一揃	一	
一	二	一揃	一	
一	二	一揃	一	
	總噸數四十噸未滿ノ動力漁船ニハ黑球ヲ備フルコトヲ要セズ 黑球ハ直徑六一〇ミリメートル以上ノ布其ノ他ノ保存ニ耐フベキ材料ヲ用ヒタルモノナルコトヲ要ス	本表備考表ニ依ルベシ		

國際信號旗	國旗	火箭又ハ榴彈	
一組	二	六	榴彈ヲ備フルトキハ打上臺一箇ヲ備ヘ適當ノ場所ニ据附クベシ 口徑八九ヨリメートル以上ノ信號砲又ハ口徑一四〇ミリメートル以上ノ白砲、附屬具及十二發以上ノ發射設備ヲ備フル漁船ニハ火箭又ハ榴彈ヲ備ヘザルモ妨ナシ 總噸數千噸未滿ノ運搬漁船ハ二箇ト爲スモ妨ナシ
一組	一	二	
一組	一	二	
旗NC二	一	二	
旗NC二	一	二	
旗NC二	一		
			總噸數百噸未滿ノ漁船ニハNC二旗ノミヲ備フルモ妨ナシ但シNC旗ノミヲ備フル漁船ト

	國際通信書	一	一	一	一	一
	船名錄	一	一	一	一	一
	海錨	一	一	一	一	一
	信號燈	一	一	一	一	一
備考		雖モ信號符字ノ點符アルモノハ其ノ符字ニ對スル信號旗ヲ備フベシ	總噸數百噸未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナク又無線電信裝置ノナキ漁船ニハ國際通信書中電信篇ヲ備ヘザルモ妨ナシ	總噸數百噸未滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ	總噸數二百噸以上ノ漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ	總噸數百五十噸以上ニシテ國際航海ヲ爲ス漁船ニ限リ之ヲ備フベシ

漁業燈ヲ備フベキ漁船ノ種別及備フベキ漁業燈ノ種類並ニ數ハ左ノ各號ニ掛ル但シ各號ノ白燈ハ之ト同種以上ノ白燈ヲ碇泊燈トシテ備フルトキハ碇泊燈ヲ以テ兼用スルコトヲ得

(一) 甲板ヲ張詰メザル漁船ニシテ夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出セル漁具ノ端ト本船トノ水平距離ガ四五・七メートル以内ナルモノ

甲種、乙種、丙種又ハ丁種白燈一箇

(二) 甲板ヲ張詰メザル漁船ニシテ夜間漁船ニ從事スルニ當リ其ノ放出セル漁具ノ端ト本船トノ水平距離ガ四五・七メートルヲ超ユルモノ

甲種、乙種、丙種又ハ丁種白燈二箇

(三) 甲板ヲ張詰メタル漁船ニシテ夜間流網又ハ延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スルモノ

甲種白燈二箇

(四) 夜間打瀨網桁網其ノ他海底ニ曳ク漁具ヲ用ヰテ漁業ニ從事スルモノ

甲種又ハ乙種白燈一箇

(五) 前號ノ漁船中夜間機關ヲ以テ推進シ漁具ヲ海底ニ曳クモノ

前號ノ白燈ノ外三色燈一箇

第五號表

發動機ヲ備フル漁船ノ機關備品表

漁船ノ種別 / 船體ノ長サ / 名稱	第二種漁船、「トロール」汽船又ハ漁船特殊規則第五條第四號ニ掲グル業務ニ從事スル漁船		其ノ他ノ漁船		摘要
	三〇米以上	三〇米未滿	三〇米以上	三〇米未滿	
氣筒蓋（附屬品ノ他ノ完備セルモノ）	各形一組				
「ピストン」完備セルモノ	一箇				
「ピストン」環	一組	同	同	同	
噴油辨（辨座、辨匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ）	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	長サ五〇メートル以上ノ船舶ニ備フル「ディーゼル」式發動機ニ限ル
吸氣辨（辨座、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ）	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	同
廢氣辨（辨座、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ）	氣筒一箇毎ニ一組	同	同	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一組	中半數ハ辨、辨座及發條ノミニ止ムルコトヲ得複働式ナルトキハ上記ノ倍數トス

噴油管及接合金具	一揃	同	上	上	上	上
「ピストン」冷却用伸縮嵌合管又ハ搖動管	一組	同	上	同	上	上
主軸受螺釘及母螺	一氣筒分	同	上	同	上	上
連接桿上下ノ受金	二桿分	同	上	一桿分	同	上
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿分	同	上	同	上	上
接軸鍔螺釘及母螺	各種一組	同	上	同	上	上
始動辨及發條	一組	同	上	同	上	上

無空氣噴油「デイーゼル」式發動機ニ限ル

正副空氣壓縮機ノ壓縮筒ノ「ピストン」環	各形一組	同	上	同	上	上
正副空機壓縮機ノ吸入辨及排出辨並ニ發條	各形半組	同	上	同	上	上
掃除空氣「ポンプ」辨及發條	一組					
燒球式發動機ノ掃除空氣辨	二氣筒分	同	上	一氣筒分	同	上
噴油「ポンプ」ノ辨、辨座及發條	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	氣筒四箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒分	同	上	一氣筒分	上
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ扇車軸	一箇	同	上			

氣筒、氣筒蓋、「ピストン」當ノ冷却「ポンプ」ノ辨及發條	一組同	上	上	上
潤滑油「ポンプ」ノ辨及發條	一組同	上	上	上
移油「ポンプ」ノ辨及發條	一組	上	上	上
淦水「ポンプ」辨	一組同	上	上	上
燒球	氣筒一箇同	上	上	上
點火栓	每氣筒一箇ニ一箇同	上	上	上
電池	常用ノ數同	上	半常用	同
電線	若干同	上	上	同
始動用燈	常用ノ外二箇同	上	上	同
滑車又綱	一組同	上	上	同
螺旋切道具	一組	上	上	上
鑽孔器	一組	上	上	上
鞴	一箇	上	上	上
金敷	一箇	上	上	上
据附萬力	一箇	上	上	上
鋼板	若干	上	上	上
鋼棒	若干	上	上	上
螺釘及母螺	各種若干同	上	上	上
機關室小道具	一揃同	上	上	上

溫度計	二箇	一箇	二箇
回轉計	一箇	同上	同上
			一箇
			同上

備考

發動機又ハ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ氣筒蓋乃至點火栓ハ之ヲ發動機又ハ「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

漁船ノ業務認定ニ關スル件（遞信省、農林省告示第一號）

漁船特殊規則第三條第十號ノ業務及第四條第十號ノ業務左ノ如シ

第一條　左ニ掲グル業務ハ第三條第十號ノ業務トス

一、定置漁業
二、敷網漁業
三、追込網漁業
四、飼付漁業
五、蛸壺漁業
六、潛水漁業
七、縫切網漁業
八、待網漁業
九、鰒漬漁業
十、浮曳網漁業

漁船ノ業務認定ニ關スル件

十一、其ノ他ノ雜種漁業

第二條　左ニ掲グル業務ハ第四條第十號ノ業務トス

一、鮭鱒、蟹漁業（母船ニ附屬スル漁船ニ依リテ爲スモノニ限ル）

二、鮪流網漁業

三、珊瑚漁業

四、蝶貝、高瀨貝及千歲貝漁業

船鑑札規則

（明治四十年五月遞信省令第二四號）

改正（大正二年九月遞信省令第八八號）（同年十月一日ヨリ施行）

改正（大正十一年六月遞信省令第三九號）（同年七月一日ヨリ施行）

改正（大正十四年十二月遞信省令第九三號）（大正十二年十二月二十一日ヨリ施行）

改正（昭和七年四月十一日遞信省令第九號）（昭和七年六月二十日ヨリ施行）

第一條　總噸數二十噸未滿ノ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受有スヘシ

大正十四年勅令第三百二十七號（大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行ニ關スル勅令）第一條ノ法人又ハ支那ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有スルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス支那ニ船籍港ヲ定ムルコトヲ得

一、總噸數五噸未滿

二、端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟

第二條　船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出スヘシ

管海官廳、日本ノ領事館、貿易事務館、其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

第一項ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ナルトキハ大正十四年勅令第三百二十七號第一條ノ規定ニ依ル領事官ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證明スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三條　地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測度スヘシ但前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ爲シタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第四條ノ二　船鑑札ヲ受有スル船舶ハ船體外部ニ於テ船首兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船舶ノ所屬道府縣名（支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ニ在リテハ船籍港ヲ管轄スル領事館ノ所在地名）及船鑑札番號ヲ標示スヘシ

特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ當該官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其ノ他久シキニ耐ユル方法ニ依リ高幅共「十センチメートル」以上ノ文字ヲ以テ明瞭ニ之ヲ現ハシ船名及道府縣名又ハ領事館ノ所在地名ハ國字船鑑札番號ハ亞剌比亞數字ト爲スヘシ但シ府縣名ヲ記ス場合ニ於テ「府」又ハ「縣」ノ文字ハ之ヲ省略スヘシ

標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ標示ヲ改ムヘシ

第五條　船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其ノ他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船鑑札ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ書換ヲ申請スヘシ

第二條第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス

船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ船舶所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一項ノ申請ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條　甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ遲滯ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ添附シテ其ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第九條　行政區畫變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タス遲滯ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載スタル區劃、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但前項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條　地方官廳カ第六條若ハ前項ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條　左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一、船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

二、船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ

三、船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノト爲リタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第十三條　船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶檢査法ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條　地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨視セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ改測又ハ標示ノ改訂ヲ爲サシムヘシ

第十五條　第一條、第四條ノ二、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條ノ二　本令ニ於テ地方官廳ノ事務ハ支那ニ在リテハ日本ノ領事館之ヲ行フ

附　則

第十六條　本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　明治二十九年十二月遞信省令第二十五號船鑑札規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十八條　本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ本則施行ノ日ヨリ五箇年內ニ於テ地方長官ノ定ムル期間內ニ更ニ船鑑札ノ交付ヲ申請シ現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ

前項ノ期間內ト雖モ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ要スルトキハ遲滯ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條、第三條及第四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船鑑札ヲ受有スルニ至ルマテ本則ニ定ムル船鑑札ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條　第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ同條ニ揭ケタル事由カ生シタルモ未タ船鑑札ヲ返還セサル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ同條第一項ニ定ムル期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條　前條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則　（大正二年九月省令第八八號）

本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本令ノ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ本令施行前ニ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノトナリタル船舶ニ於テハ船鑑札規則第十二條第一項ニ定ムル期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附　則

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ大正十一年十二月三十一日迄本令ノ施行ヲ猶豫ス

附　則

第一條　本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ昭和九年六月三十日マテ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第三條　從前ノ規定ニ依リ噸數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ昭和九年六月三十日マテニ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ石數船改測規則ニ從ヒ地方長官ノ定ムル所ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタルトキハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス

船舶所有者前二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク舊船鑑札ヲ返還スヘシ

（第一號書式）

船鑑札交付申請書

一、船　種（汽船、帆船ノ別）船名

二、船　籍　港（當該市町村名）

三、進水ノ年月

四、尺　度（船ノ長、幅、深）

五、機關ノ種類（汽機、發動機、電動機ノ別）

六、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分

七、測度ヲ受ケントスル場所

八、申請ノ事由（新造、外國船購入等）

右船舶新造（又ハ何國人何某ヨリ買受等）候ニ付船鑑札交付相成度此段及申請候也

年　月　日

住所
氏名㊞

地方官廳宛

（第二號書式）

表

第　號　船鑑札

汽船
帆船　丸

住所
氏名

年　月　日

地方官廳名

烙印

裏

船籍港
長
幅
深
總噸數
純噸數
進水ノ年月
機關ノ種類

備考

一、船籍港ハ市ニ付テハ單ニ何市ト記載シ町村其ノ他之ニ類スル區劃ニ付テハ何府縣何郡何町何村等ト記載スヘシ

二、船鑑札ノ寸法ハ竪十五センチメートル横十センチメートル厚及木質ハ適宜トス

水産會法

（大正十年四月十一日法律第六十號）
（昭和八年五月二十六日法律第五十六號改正）

第一條　水産會ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　水産會ハ法人トス

第三條　水産會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　政府ハ其ノ定ムル條件ヲ具備スル水産會ニ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五條　水産會ハ水産業ニ關スル事項ニ付行政官廳ニ建議スルコトヲ得

水産會ハ行政官廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第六條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ水産會ニ對シ水産業ニ關スル報告書ノ提出及水産業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條　水産會ハ郡市水産會、道府縣水産會及帝國水産會トス

第八條　水産會ノ地區ハ郡市水産會ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外郡市、

道府縣水産會ニ在リテハ道府縣、帝國水産會ニ在リテハ内地ノ區域ニ依ル

第九條　水産會ノ名稱ニハ郡若ハ市水産會、道、府若ハ縣水産會又ハ帝國水産會ナル文字ヲ用ヰルヘシ但シ郡市水産會ノ地區カ郡市ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ名稱中ニ郡又ハ市ノ文字ヲ用ヰサルコトヲ得

本法ニ依リ設立シタル水産會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲クル文字ヲ用ヰルコトヲ得ス

第十條　水産會ハ郡市水産會ニ在リテハ命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外其ノ地區内ニ於テ漁業又ハ水産物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區内ニ於ケル漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者、道府縣水産會ニ在リテハ其ノ地區内ノ郡市水産會、帝國水産會ニ在リテハ道府縣水産會ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　水産會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ申請スヘシ

郡市水産會ノ設立ニ關シ前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ漁業權又ハ入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做シ、一人ニシテ前條ニ掲クル二以上ノ資格ヲ有スル者ハ之ヲ一人トス

第十二條　水産會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十三條　水産會成立シタルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　郡市水産會ニ總代會、其ノ他ノ水産會ニ總會ヲ置ク

總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル水産會ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十五條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

行政官廳ハ水産會ノ特別議員ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　左ニ掲クル事項ハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

一、收支豫算
二、經費ノ分賦收入方法
三、事業報告及收支決算ノ承認
四、豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フヘキ行爲
五、基金ノ造成、管理及處分
六、不動產ニ關スル權利ノ得喪及變更
七、會則ノ變更
八、役員及特別議員ノ選任及解任
九、訴願、訴訟及和解

前項第一號、第二號、第四號及第七號ニ揭クル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

第十七條　總代會又ハ總會ハ會長之ヲ招集ス但シ第一回ノ總代會又ハ總會ハ水產會成立シタルトキ遲滯ナク設立申請者之ヲ招集スヘシ

議員又ハ特別議員ハ議員及特別議員ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會又ハ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後十四日以內ニ總代會又ハ總會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條　議員及特別議員ハ總代會又ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第十九條　總代會及總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除タノ外出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十條　會則ノ變更ハ總代會又ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

郡市水產會ノ會則ノ變更カ地區ノ增減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入又ハ削除セラルヘキ區域內ノ會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　水産會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一人

副會長　一人又ハ二人

評議員　數人

役員ハ郡市水産會ニ在リテハ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ總會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス

第二十二條　會長ハ水産會ヲ代表シ會務ヲ總理ス副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ並會務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十三條　總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總代會又ハ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ專決處分スルコトヲ得但シ第十六條第二項ノ事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總代會又ハ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ委員會ヲ置クコトヲ得

左ニ掲クル者ヲ以テ委員トス

一、會長

二、副會長

三、會則ニ定メタル方法ニ依リ選任シタル者

第二十五條　委員會ハ仲裁判斷其ノ他會則ニ定ムル事項ニ關シ審議決定ス

第二十六條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徴收スルコトヲ得

郡市水産會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ會長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ水産會ハ其ノ徴收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

市町村カ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セス又ハ九十日

以内ニ之ヲ完了セサルトキハ會長ハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制第百十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル徴收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徴收金ニ次キ其時効ニ付テハ市町村税ノ例ニ依ル

經費ハ分賦又ハ過怠金ノ徴收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

（參照）

町村制第百十一條

第一項　町村税、使用料、手數料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

第四項　滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

第二十七條　帝國水産會ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル水産會ニ準スル法人其ノ他ノ團體ヲ會員ト爲スコトヲ得

第二十八條　行政官廳ハ水産會ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ會則、收支豫算又ハ經費ノ分賦及收入ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　行政官廳ハ水産會ノ總代會、總會若ハ委員會ノ決議又ハ役員若ハ委員ノ行爲ニシテ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ役員若ハ委員ヲ解任シ、議員ノ改選ヲ命シ水産會ノ事業ヲ停止シ又ハ水産會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十條　水産會解散又ハ合併若ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ尙分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水産會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且水産會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ規定スル會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　水産會ハ債權者ノ同意ヲ得又ハ異議アル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ若ハ相

當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ水産會ノ解散、合併若ハ分割ヲ爲シ又ハ地區ノ增減ニ關スル會則ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　合併後存續スル水産會又ハ合併ニ因リテ設立シタル水産會ハ合併ニ因リテ消滅シタル水産會ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル水産會ハ第三十條ノ規定ニ依リテ定メタル限度ニ於テ從前ノ水産會ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十三條　水産會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス

第三十四條　水産會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總代會若ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

第三十五條　清算人ハ水産會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算ノ方法及財産處分ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算ノ方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條　本法ニ於テ郡市町村トアルハ郡制市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ存スル水産組合及水産組合聯合會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依ル水産會ト爲スコトヲ得

水産會法施行期日ノ件

〔大正十年六月四日〕
〔勅令第二百六十號〕

水産會法ハ大正十年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス

水產會報第二十六條ニ依ル異議ノ申立、訴願及行政訴訟ニ關スル件

〔大正十年六月四日勅令第二百六十一號
昭和八年五月二十六日勅令第百三十七號改正〕

第一條　水產會ノ經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ水產會ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ水產會ノ會長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ遲滯ナク決定ヲ爲シ異議申立人ニ之ヲ通知スヘシ

第二條　郡市水產會又ハ道府縣水產會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ當該ノ郡市水產會又ハ道府縣水產會ノ會長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

帝國水產會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第廿六條ニ依ル異議ノ申立訴願及行政訴訟ニ關スル件

第三條　前條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ニ訴願セムトスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル水産會ヲ經由スヘシ前條第三項ノ規定ニ限リ訴願セムトスルトキ亦同シ

第四條　水産會法第二十六條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

水産會法第二十六條第三項ノ規定ニ依ル處分ニ付地方長官ニ訴願セントスルトキハ其ノ處分ヲ爲シタル水産會ヲ經由スヘシ

第五條　異議ノ申立又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ異議ノ申立ニ關シテハ訴願法第五條、第八條第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十四條ノ規定ヲ準用スル

第六條　本令ノ樺太ニ於ケル適用ニ付テハ農林大臣トアルハ拓務大臣、地方長官トアルハ樺太長官トス

附　則

本令ハ水産會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水產會法施行規則

（大正十年六月四日農商務省令第十七號
同十一年五月八日同省令第十二號改正
昭和四年九月二日農林省令第二十一號改正
昭和八年五月二十七日農林省令第八號改正）

第一條　左ニ掲クル者ハ郡市水產會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス

一、國及公共團體

二、鹽業者

三、小賣ヲ主タル目的トスル製造業者及販賣業者

四、水產物ノ保管ヲ主タル目的トセサル保管業者

前項ニ掲クル者ノ外地方長官ニ於テ特ニ郡市水產會ノ會員ヨリ除外スルノ必要アリト認ムル者アルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二條　水產會ヲ設立セムトスルトキハ郡市水產會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者三十人以上、其ノ他ノ水產會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル水產會二以上發起人ト爲リ會員タル資格ヲ有スル者ニ地區、事業ノ概目、創立費用及收支ノ概算並經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

第三條　發起人創立總會ヲ招集セムトスルトキハ帝國水產會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、其ノ他ノ水產會ニ在リテハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ會員タル資格ヲ有スル者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

第四條　創立總會ノ議事ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

郡市水產會ノ創立總會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十六條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

第五條　水產會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第六條　創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滯ナル設立認可申請書ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條　會則ニハ水產會法又ハ本則ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一、目的

二、名稱

三、郡市ノ區域ニ依ラサル郡市水產會ニ在リテハ其ノ地區

四、役員ノ定數及任期ニ關スル規定

五、議員ノ任期、選任及解任ニ關スル規定

六、會議ニ關スル規定

七、會計ニ關スル規定

第八條　水產會成立シタルトキハ行政官廳ハ其ノ名稱、地區、事務所及認可ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタルトキハ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條　郡市水產會及道府縣水產會ノ議員ノ定數ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ三十人ヲ超ユルコトヲ得ス

帝國水產會ノ議員ノ定數ハ其ノ會員ノ數トス

帝國水產會ノ會員ハ前項ノ議員事故アルトキ之ニ代ルヘキ豫備議員各一人ヲ選任ス

ヘシ

第十條　郡市水産會ノ議員ハ其ノ會員中ヨリ投票ニ代リ之ヲ選任ス

道府縣水産會ノ議員ハ郡市水産會ノ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス

帝國水産會ノ議員及豫備議員ハ道府縣水産會ノ總會ニ於テ之ヲ組織スル郡市水産會ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス

前項ノ規定ハ水産會法第二十七條ノ規定ニ依リ帝國水産會ノ會員ト爲リタル法人其ノ他ノ團體ヨリ選任スヘキ議員及豫備議員ニ付之ヲ準用ス

第十一條　郡市水産會ノ議員ヲ選任スルノ權利ハ一人一個トス但シ漁業權又ハ入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做ス

前項ノ權利ハ會員自ラ之ヲ行フヘシ但シ未成年者及禁治産者ニ在リテハ法定代理人ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十二條　郡市水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員ヲ區域又ハ業種ニ分チ各別ニ所定ノ員數ノ議員ヲ選任セシムルコトヲ得

第十三條　郡市水産會ノ議員ノ選任ニ關スル事務ハ會長之ヲ管理ス但シ第一回ノ選任ニ付テハ設立申請者中ノ一人之ヲ管理ス

前項但書ノ規定ニ依ル管理者ハ設立申請者ノ互選ニ依リ之ヲ定メ地方長官ニ届出ツヘシ

第十四條　總代會又ハ總會ヲ招集セムトスルトキハ帝國水産會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ少クトモ十四日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ議員及特別議員ニ通知スヘシ

前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十五條　總代會又ハ總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　總代會又ハ總會ノ議長ハ議事錄ヲ作リ左ニ揭クル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ヲ署名スヘシ

一、開會ノ日時及場所

二、議員及特別議員ノ定數

三、出席者ノ員數

四、議事ノ要領

五、議決シタル事項及贊否ノ數

第十七條　水産會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十八條　收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ少クトモ每事業年度三十日前ニ之ヲ差出スヘシ但シ初年度ニ在リテハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

第十九條　事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度内ニ總代會又ハ總會ノ承認ヲ受ケ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

第二十條　水産會法第二十一條第三項ノ規定ニ依ル役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附シ尙會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ役員ヲ選任シタル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十一條　水産會ニハ會則ヲ定ムル所ニ依リ主事、技師其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

主事及技師ノ命免ハ之ヲ行政官廳ニ届出ツヘシ

第二十二條　水産會ノ解散、合併若ハ分割又ハ地區增減ニ關スル會則變更ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面及水産會法第三十一條ニ規定スル事項ヲ證スル書面ヲ添附シ尙合併ノ場合ニ於テハ合併後存續スル水産會又ハ合併ニ因リテ設立スル水産會ノ會則ヲ、分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水産會ノ會則及其ノ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十三條　水産會ノ解散又ハ合併若ハ分割アリタルトキハ行政官廳ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二十四條　清算結了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨行政官廳ニ届出ツヘシ

第二十五條　左ノ場合ニ於テハ水産會ハ遲滯ナク其ノ旨行政官廳ニ届出ツヘシ

一、事務所ヲ移轉シタルトキ

二、會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

三、役員又ハ特別議員ノ選任解任又ハ退任アリタルトキ

四、清算人ノ就任又ハ退任アリタルトキ

第二十六條　郡市水産會及道府縣水産會ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第二十七條　左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農商務大臣ニ報告スヘシ

一、郡市水産會ノ設立ヲ認可シタルトキ

二、郡市水産會ノ會則ノ變更ヲ認可シタルトキ

三、水産會法第二十八條ノ規定ニ依リ郡市水産會ノ會則ノ變更ヲ命シ又ハ同法第二十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ會則ノ謄本ヲ添附スヘシ

第二十八條　水産會法第十一條、第十三條、第二十一條第三項及本則第八條、第二十三條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ郡市水産會ニ在リテハ地方長官、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ農商務大臣トス水産會法第十六條第一項第七號ニ掲タル事項ノ認可並本則第二十五條第一號及役員ノ選任、解任又ハ退任ノ届出ニ付亦同シ

水産會法第十五條、第十七條、第三十四條乃至第三十六條及本則第十九條、第二十一條、第二十四條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ帝國水産會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ水産會ニ在リテハ地方長官トス水産會法第十六條第一項第一號、第二號、第四號ニ掲クル事項ノ認可並本則第二十五條第二號、第四號及特別議員ノ選任解任又ハ退任ノ届出ニ付亦同シ

水産會法第二十八條及第二十九條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ帝國水産會ニ於リテハ農商務大臣其ノ他ノ水産會ニ在リテハ農商務大臣及地方長官トス但シ郡市水産會ノ解散並道府縣水産會ノ解散及會則ノ變更ニ付テハ農商務大臣トス

附　則

本則ハ水産會報施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水産組合ヲ郡市水産會ト爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ認可ヲ申請スヘシ但シ水産會ノ會員タル資格ヲ有スル者ニシテ水産組合ニ加入セサルモノアルトキハ尙其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

水産組合聯合會ヲ道府縣水産會ト爲サムトスルトキハ加入組合全部ノ同意ヲ得テ其ノ認可ヲ申請スヘシ

前二項ノ認可申請ノ手續ニ付テハ第六條第二項ノ規定ヲ準用ス

水產會補助金交付規則

〔大正十年六月四日〕
〔農商務省令第十八號〕

第一條　水產會法第四條ニ規定スル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條　補助金ハ帝國水產會及道府縣水產會ニ之ヲ交付ス但シ農商務大臣ニ於テ特ニ必要アルト認ムルトキハ郡市水產會ニ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條　水產會補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ二月末日迄ニ申請書及左ノ書類ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一、補助ヲ受ケムトスル年度ノ收支豫算書及事業方法書

二、申請ノ理由ヲ明ニスヘキ書類

新ニ設立シタル水產會ニシテ補助金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ設立後遲滯ナク前項ノ書類ヲ差出スヘシ

第四條　水產會補助ノ條件ニ違反シタルトキハ農商務大臣ハ補助金交付ノ指令ヲ取消シ、補助金額ヲ減少シ又ハ補助金ヲ還納セシムルコトアルヘシ

第五條　水產會解散シタルトキハ農商務大臣ハ補助金ヲ還納セシムルコトアルヘシ

水産會補助金交付規則

附　則

本則ハ水産會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

宮城縣水產會々則

第一章　總則

第一條　本會ハ水產業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ之カ爲必要ナル指導奬勵其他諸般ノ施設ヲ爲スモノトス

第二條　本會ハ宮城縣水產會ト稱ス

第三條　本會ハ宮城縣內ノ郡水產會ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　本會ノ事務所ハ宮城縣仙臺市ニ置ク

第二章　總會

第一節　議員及特別議員

第五條　總會ノ議員ノ數ハ十五人トシ左ノ區別ニ從ヒ各郡水產會ニ於テ之ヲ選任ス

亘理郡水產會	二人
名取郡水產會	二人
宮城郡水產會	二人

桃生郡水産會　二人
牡鹿郡水産會　三人
本吉郡水産會　四人

第六條　議員ノ任期ハ選任ノ日ヨリ四年トス
補缺ノ爲選任セラレタル議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
議員ハ任期滿了後ト雖モ其ノ選任ヲ爲シタル郡水産會ニ於テ後任者ヲ選任スル迄仍其任ニ在ルモノトス

第七條　議員ハ任期中其ノ選任セラレタル郡水産會ノ會員タル資格ヲ喪失シタルトキハ退任ス

第八條　本會ハ水産業ニ關シ學識經驗ヲ有シ又ハ功勞アル者ノ中ヨリ特別議員ヲ選任スルコトヲ得
特別議員ノ任期ハ選任ノ日ヨリ四年トス

第二章　會議

第九條　總會ハ通常總會及臨時總會トス

第十條　通常總會ハ毎年一回十二月ニ之ヲ開ク
但シ止ムヲ得サル事由アルトキハ延期スルコトヲ得
臨時總會ハ會長必要ト認メタルトキ及水産會法第十七條第二項ノ規定ニ依ル請求アリタルトキ之ヲ開ク

第十一條　總會ニ於テハ豫メ通知アリタル事項ノ外議決スルコトヲ得ス
但シ緊急ノ要アル事項又ハ輕易ナル事項ニ付キテハ此ノ限ニアラス

第十二條　總會ノ議長ハ會長之ニ當リ會長事故アルトキハ副會長之ニ代ル會長及副會長共ニ事故アルトキハ出席ノ者之ヲ互選ス
會議ニ關スル規則ハ評議員ノ意見ヲ徵シ會長之ヲ定ム

第三章　役員及職員

第十三條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長　一人
副會長　二人
評議員　六人

第十四條　役員ノ任期ハ選任ノ日ヨリ四年トス

補缺ノ爲選任セラレタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職ヲ行フモノトス

役員ハ任期滿了ノ爲議員ノ資格ヲ失ヒタルトキ亦同シ

第十五條　會長ノ職務中左ニ掲クル事項ハ副會長之ヲ專決ス

庶務ニ關スル事項

庶務ニ關スル細則ハ會長之ヲ定ム

第十六條　左ニ掲クル事項ニ付テハ會長ハ之ヲ評議員ニ諮問スヘシ

一、總會ニ提出スル議案

二、臨時總會ノ招集

三、豫備金ノ支出

四、行政廳ニ建議シ又ハ行政廳ノ諮問ニ對スル答申

第十七條　行政官廳ノ認可ヲ受クルヘキモノヲ除ク外總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第十八條　役員ハ名譽職トス但總會ノ議決ヲ經テ報酬ヲ給スルコトヲ得

本會ニ顧問ヲ置クコトヲ得顧問ハ會長之ヲ囑託ス

第十九條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

主事	一人	
技師	若干名	
書記	若干名	
技手	若干名	

主事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ掌理ス

技師ハ會長ノ命ヲ受ケ技術ヲ掌ル

書記ハ主事ヲ佐ケテ庶務ニ從事ス

技手ハ技師ヲ佐ケテ技術ニ從事ス

第四章　委員會

第二十條　本會ニ委員會ヲ置ク

左ニ掲クル者ヲ以テ委員トス

一、會　長

二、副　會　長

三、總會ニ於テ選任シタル者六人

前項第三號ノ委員ハ會員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得ス

第二十一條　總會ニ於テ選任シタル委員ノ任期ハ選任ノ日ヨリ三年トス

前項ノ委員ハ總會ニ於テ組織スル者ノ四分ノ三以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ解任スルコトヲ得ス

第二十二條　委員ハ名譽職トス但シ總會ノ議決ヲ經テ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十三條　委員會ハ左ニ掲クル事項ニ關シ審議決定ス

一、紛議ノ調停又ハ爭議ノ仲裁判斷ニ關スル件

二、扶助金又ハ救濟金ノ支給ニ關スル件

三、其ノ他會長ニ於テ必要ト認ムル件

第二十四條　委員會ハ會長之ヲ招集ス

委員會ハ委員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五章　會　計

第二十五條　會員タル郡水産會ハ經費分賦收入方法ノ定ムル所ニ依リ本會ノ經費ヲ負擔スルモノトス

第二十六條　豫算ノ同一款内ニ於ケル經費ノ流用ハ會長之ヲ專決スルコトヲ得

第二十七條　本會ニ基金ヲ設ク

每年度剩餘金ハ其ノ二分ノ一以上ヲ基金ニ編入ス特定ノ目的ナキ寄附金ヲ受ケタルトキハ之ヲ基金ニ編入ス

第二十八條　會計ニ關スル規則ハ會長之ヲ定ム

附　則

本會設立後役員ノ就任スル迄必要ナル事項ハ發起人ノ代表者之ヲ行フ

第十條第一項ノ規定ハ大正十年度ニ限リ之ヲ適用セス

宮城縣牡蠣水產組合定款

第一章　總則

第一條　本組合ハ組合員相互ノ間ニ於ケル營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ堅實ナル發達ヲ計リ其ノ他共同ノ利益ヲ增進スルヲ以テ目的トス

第二條　本組合ハ宮城縣牡蠣水產組合ト稱ス

第三條　本組合ノ地區ハ宮城縣一圓トシ事務所ハ仙臺市ニ置ク

第四條　本組合ハ本組合地區內ニ於テ牡蠣ノ養殖又ハ採取ヲ爲ス者ヲ以テ組織ス

第五條　本組合ハ其ノ目的ヲ達成スル爲左ノ業務ヲ行フ

一、牡蠣ノ檢査及取締ノ施行

二、輸出牡蠣ニ關スル販賣ノ統制

三、品質ノ向上並販路ノ擴張

四、牡蠣ニ關スル試驗研究及調査

五、荷造及運搬方法ノ改善

六、牡蠣ノ處理並衛生施設ノ改善
七、生產品ノ販賣斡旋
八、內外ニ於ケル商況及取引方法ニ關スル調査
九、漁場ノ調査研究並指導
一〇、前各項ノ外本組合ノ目的遂行ニ必要ナル事項

第二章　加入及脫退

第六條　本組合ノ地區內ニ於テ第四條ノ業務ヲ爲ス者又ハ爲サムトスル者ハ其ノ住所氏名又ハ名稱所在地ヲ記載シタル加入屆ヲ組合ニ提出スヘシ但シ法人ニ在リテハ其ノ定款代表者ノ住所氏名及主タル營業所々在地ヲ併記スルコトヲ要ス

組合ニ於テ前項ノ加入屆ヲ受理シタルトキハ其ノ各事項ヲ組合員名簿ニ記載シ其ノ旨本人ニ通知スベシ

第七條　組合員前條ノ規定ニ依リ屆出テタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク組合ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第八條　組合員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ其ノ資格ヲ喪失ス但シ死亡シタル組

合員ノ相續人ハ同一營業ヲ營ム場合ハ組合員ノ資格ヲ繼承シタルモノト看做ス

一、死亡シタル場合
二、營業ヲ讓渡シタル場合
三、第四條ニ定メタル業務ヲ廢止シタル場合

前項各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ハ組合員又ハ相續人ハ其ノ旨遲滯ナク組合ニ屆出ツヘシ

組合前項ノ屆出ヲ受理シタルトキハ遲滯ナク組合員名簿ヲ訂正シ且ツ其ノ旨本人又ハ相續人ニ通知スベシ

第三章　組合員ノ權利義務

第九條　組合員ハ定款ノ規定ニ從ヒ代議員ノ選擧及被選擧權並ニ役員ノ被選擧權ヲ有ス、組合員ハ正當ノ理由ナクシテ代議員又ハ役員ノ當選ヲ辭シ若ハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第十條　組合員ハ組合執務時間中ニ限リ組合ノ業務ニ關シ組長ニ帳簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第十一條　組合員ハ定款ノ規定組合會ノ決議及定款ノ規定ニ基ク細則ヲ遵守スル義務ヲ負フ

第十二條　組合員ハ定款ノ規定ニ從ヒ組合經費ヲ負擔スル義務ヲ負フ

第八條ニ依リ組合員組合員タル資格ヲ喪失シタルトキト雖モ組合財產ノ分配及組合費ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條　組合員ノ代理人家族又ハ被傭者ニシテ定款ノ規定組合會ノ決議又ハ定款ニ基ク細則ニ違背シタル行爲アルトキハ組合員其ノ責ニ任スルモノトス

第十四條　組合員ハ役員又ハ檢査ニ從事スル職員ノ職務ノ執行ヲ妨ケ又ハ拒絕スルコトヲ得ス

第十五條　組合員ハ組長ノ照會又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲ス義務ヲ負フ

第四章　會議

第一節　組合會

第十六條　組合會ハ代議員ヲ以テ組織ス

第十七條　代議員ノ定數ヲ三十二人トシ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區及各選擧區ニ於テ選擧スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム特別ノ事情アリト認ムルトキハ組長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ投票分區ヲ設クルコトヲ得

第十八條　投票ハ一人一票トス

第十九條　代議員ノ任期ハ總選擧ノ日ヨリ三年トス但シ再選ヲ妨ケス

第二十條　代議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ總選擧ニ於ケル其ノ選擧區內ノ代議員定數ヲ以テ有効投票ノ總數ヲ除シタル總數ノ四分ノ一以上ノ得票者中ヨリ第二十三條ヲ準用シテ組長之ヲ補充ス

前項ニヨリ補充スルモ尙缺員アルトキハ補缺選擧ヲ行フ

補缺選擧ニヨリ當選シタル代議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第二十一條　代議員ノ選擧ハ單記無記名投票ニヨリ之ヲ行フ

第二十二條　組合員ハ代理人ニ依リ選擧ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　代議員ノ選擧ハ有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

前項ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年長者ヲ採リ年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　代議員選擧執行ニ關スル細則ハ組合會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第二十五條　代議員ニシテ組合員ノ資格ヲ喪失シタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條　組合會ニ附議スヘキ事項左ノ如シ

一、經費豫算並賦課徵收方法

二、經費決算並業務成績ノ報告

三、役員ノ選任及解任

四、定款及定款ニ基ク細則ノ設定並變更

五、起債及財產ノ取得並處分

六、訴訟及和解

七、其ノ他法令又ハ定款ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項

第二十七條　組合會ハ通常組合會及臨時組合會ノ二種トス

第二十八條　通常組合會ハ毎年一月組長之ヲ招集ス

第二十九條　臨時組合會ハ左ノ場合ニ於テ組長之ヲ招集ス

一、組長必要ト認ムルトキ

二、代議員定數ノ五分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及招集事由ヲ示シ其ノ招集ヲ請求シタルトキ

三、評議員會其ノ決議ニ基キ組合財產及業務狀況ヲ報告スル爲其ノ招集ヲ請求シタルトキ

前項第二號及第三號ノ場合ニ於テ二週間以內ニ組長招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ知事ノ認可ヲ得テ自ラ招集スルコトヲ得

第三十條　組合會ヲ招集セムトスルトキハ會日ヨリ少クトモ一週間前迄ニ會議ノ目的タル事項日時及場所ヲ代議員ニ通知スベシ

臨時急施ヲ要スル場合ハ前項ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十一條　組合會ニ於ケル議長ハ組長之ニ當ル組長事故アルトキハ副組長之ニ當ル

組長副組長共ニ事故アルトキハ代議員ノ互選ニヨリ之ヲ定ム

第三十二條　組合會ハ代議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

前項ニ定メタル員數ノ代議員出席セサルトキハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ假

決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各代議員ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ヲ通知シ更ニ一ヶ月内ニ第二回ノ組合會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二回ノ組合會ニ於テハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

第三十三條　組合會ノ決議ハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス但シ定款及定款ニ基ク細則ヲ設定又ハ變更セムトスルトキハ代議員定數三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ決ス

第三十四條　組合會ノ決議ヲ經ヘキ事項ニシテ輕微ナルモノ又ハ臨時急施ヲ要スルモノハ書面ニ依ル代議員ノ表決ヲ以テ組合會ノ決議ニ代フルコトヲ得

第三十五條　組合會ノ議長ハ決議錄ヲ作リ議長及出席者二名以上之ニ記名捺印スヘシ

第二節　評議員會

第三十六條　評議員會ハ評議員ヲ以テ組織シ組長副組長之ニ參加ス

第三十七條　評議員ノ職務權限左ノ如シ

一、組長ヨリ組合會ニ提出スル議案ヲ審査シ組長ニ對シ意見ヲ述フルコト

二、組合ノ財產及業務ノ狀況ヲ監査シ每事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告スルコト

三、組長ノ諮詢ニ應スルコト

四、其ノ他法令又ハ定款ノ規定ニ依リ其ノ職務權限ニ屬スル事項

第三十八條　評議員會ハ必要アル每ニ組長之ヲ招集ス

評議員三分ノ一以上カ會議ノ目的タル事項及招集事由ヲ示シ評議員會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組長之ヲ招集スヘシ組長二週間以内ニ招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ之ヲ招集スルコトヲ得

第三十九條　評議員會ノ議長ハ評議員ノ互選ニヨリ之ヲ定ム

第四十條　第三十條、第三十二條乃至第三十五條ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

第五章　役員顧問及職員

第一節　役員及顧問

第四十一條　本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組長　一名

副組長　二名

評議員　八名

第四十二條　役員ハ名譽職トス

評議員ハ他ノ役員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第四十三條　役員ノ任期ハ選任ノ日ヨリ三年トス但シ再選ヲ妨ケス

役員ハ組合會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選擧ス但シ組長副組長ハ組合員外ヨリ選任スルコトヲ得

第四十四條　役員ハ組合會ノ決議ニ依リ何時ニテモ解任スルコトヲ得

第四十五條　役員ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選擧ヲ行フ補缺役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第四十六條　役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第四十七條　組長ハ組合ノ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス

副組長ハ組長ヲ補作シ組長故障アルトキハ之ヲ代理シ組長缺ケタルトキハ之ニ代リ其ノ事務ヲ行フ

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應シ及組合ノ業務ノ狀況ヲ監査ス

組長副組長故障アルトキ又ハ缺ケタルトキハ評議員互選ニ依リ其ノ事務ヲ執ル者ヲ定ム

第四十八條　組長ハ組合會又ハ評議員會ノ決議ニシテ法律命令ニ違反シ公益ヲ害シ組合ノ目的ニ反シ又ハ之カ施行ヲ困難ト認メタルトキハ理由ヲ附シ再議ニ附スルコトヲ得

第四十九條　本組合ニ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

第二節　職員

第五十條　本組合ニ左ノ職員各若干名ヲ置キ組長之ヲ任免ス但シ檢査員ニ付テハ評議員會ノ決議ヲ經テ知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

主事

技師

書記

技手

檢査員

第五十一條　主事ハ組長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ掌理ス
技師ハ組長ノ指揮ヲ受ケ技術ニ關スル事項ヲ掌理ス
書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス
技手ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス
檢査員ハ上司ノ監督ヲ受ケ檢査事務ニ從事ス

第五十二條　調査研究ノ爲必要アル場合ハ囑託員ヲ置クコトヲ得

第六章　檢査

第五十三條　本組合ハ組合員ノ生產シタル牡蠣ニ對シ檢査ヲ施行ス
檢査ニ關スル細則ハ組合會ノ決議ニ依リ別ニ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ得テ之ヲ施行ス

第五十四條　組合員ハ前條ノ檢査ヲ受ケ合格シタル牡蠣ニ非サレハ賣買、贈與移出又ハ輸出スルコトヲ得ス不合格品ト雖モ地區外ニ搬出セザルモノニシテ檢査員ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條　檢査ニ付テハ檢査手數料ヲ徵收ス

第七章　衛生

第五十六條　本組合ニ衛生部ヲ置クコトヲ得

第五十七條　衛生部ニハ左ノ囑託ヲ置キ牡蠣ノ衛生ニ關スル事項ヲ指導ス
部長　一名
顧問　若干名
囑託　若干名

第八章　會計

第五十八條　本組合ノ會計年度ハ五月一日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ルモノトス

第五十九條　經費ノ豫算及其ノ徵收方法ハ組合會ニ於テ議定シ知事ノ認可ヲ受クルモノトス

第六十條　經費ノ決算及業務成績ハ組合員ニ公示シ知事ニ報告スルモノトス

第六十一條　會計ニ關スル細則ハ評議員會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第九章　違約處分

第六十二條　組合員ニシテ定款ノ規定及定款ニ基ク細則又ハ組合會ノ決議ニ違反シタルトキハ之ヲ公表シ且ツ五圓以上五百圓以下ノ過怠金ヲ徵收シ違約物品ヲ沒收ス違

約物品ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十三條　過怠金ハ組合ノ經費ニ充テ沒收品ハ評議員會ノ決議ニ依リ之ヲ處分ス

第六十四條　組長ハ違約ノ事實アルコトヲ認知シタルトキハ事實ヲ調査シ違約者ニ對スル違約處分ノ決定ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ハ理由ヲ附シタル書面ヲ以テ之ヲ違約者ニ通知スヘシ

組長ノ處分決定ニ對スル異議申立ハ評議員會之ヲ裁決ス

第六十五條　評議員會ノ裁決ニ對シ異議アルトキハ組合會ニ於テ之ヲ議決ス

組合會ノ決定ニハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第六十六條　違約處分決定ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サムトスルモノハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ其ノ理由及證憑ヲ具シ組長ニ申出ツヘシ

第六十七條　違約處分ニ異議ノ申立アリタルトキハ組長ハ辯明證ヲ添ヘ十五日以內ニ評議員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

評議員會前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ二十日以內ニ裁決スヘシ

前項ノ裁決ハ書面ヲ以テシ組長ヨリ異議申立者ニ通知スヘシ

第六十八條　過怠金ハ處分又ハ處分決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ組合ニ納付スヘシ

第六十九條　違約處分ニ處スヘキ事件併發シタルトキハ過怠金ハ各別ニ之ヲ徵收ス

第十章　解散及清算

第七十條　本組合ハ左ノ場合ニ於テ解散ス

一、農林大臣ヨリ解散ヲ命セラレタルトキ

二、組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ解散ノ決議ヲ爲シ知事ノ認可ヲ得タルトキ

第七十一條　組合解散シタルトキハ組長及副組長ヲ以テ清算人トス

清算人ハ其ノ職務ヲ行フニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第七十二條　清算人ハ就職ノ日ヨリ二週間以內ニ財產目錄及貸借對照表ヲ作リ組合員ニ報告スヘシ

第七十三條　清算ノ結果財產ニ剩餘アルトキハ組合會ノ決議ニ依リ之ヲ處分ス

第七十四條　清算事務終了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク其ノ顚末ヲ組合員ニ報告ス

ヘシ

附　則

第七十五條　組合設立後役員ノ就任スル迄ノ職務ハ發起人ノ代表者之ヲ行フ

第七十六條　組合會ノ決議ヲ經ヘキ第二十四條ノ代議員選擧ニ關スル細則及第五十三條ノ檢査ニ關スル細則ノ設定ハ創立總會ノ決議ヲ經テ組合會ノ決議ニ代フルコトヲ得

第七十七條　組合員牡蠣ノ輸出、若ハ保稅地域ヨリ外國ニ向ケ搬出シ又ハ輸出シ若ハ保稅地域ヨリ外國ニ向ケ搬出スルノ目的ヲ以テ買取ル者ト認ムヘキ者ニ賣渡サムトスル場合ハ檢査ヲ受クヘシ

輸出者又ハ搬出者ノ代理人使用人其ノ他輸出又ハ搬出ヲ幫助スル者ハ輸出者又ハ搬出者ト看做ス

第七十八條　第十七條ノ規定ノ改正ニ依リ增員シタル代議員ノ任期ハ現任代議員ノ殘任期間トス

（別　表）

選擧區	所屬町村名	選擧スベキ代議員數
第一區	荒濱村、逢隈村、吉田村	一名
第二區	閖上町	一
第三區	七ケ濱村	二
第四區	多賀城村	一
第五區	鹽釜町	一
第六區	利府村	一
第七區	松島町	五
第八區	浦戸村	二
第九區	宮戸村	一

第十區	野蒜村、石巻市	一
第十一區	渡波町、萩濱村	五
第十二區	稻井村、女川町	一
第十三區	大川村、十五濱村	二
第十四區	志津川町、戸倉村	一
第十五區	松岩村、階上村、大島村	二
第十六區	氣仙沼町	一
第十七區	鹿折村	四
第十八區	唐桑村	二

宮城縣牡蠣水產組合種牡蠣檢査規程

第一條　定款第五十三條ニ依ル種牡蠣ノ檢査ハ本則ニ依リ之ヲ行フ

第二條　組合員檢査ヲ受ケムトスルトキハ所轄檢査員派出所ニ第一號樣式ノ檢査請求書ヲ提出スヘシ

第三條　檢査員派出所ノ設置場所並其ノ檢査區域ハ評議員會ノ意見ヲ徵シ組長之ヲ定メ別ニ告知ス

第四條　檢査ハ左ノ事項ニ付施行シ合格不合格ヲ區別ス

一、生活力

二、附着器

三、種苗ノ大サ及附着ノ狀態

四、害敵ノ有無

五、汚物附着ノ有無

六、容　器

第五條　輸出種牡蠣ニ於テハ左ノ檢査標準ニ該當スルモノハ合格トシ然ラサルモノハ不合格トス

一、生活力旺盛ナルモノ

二、附着器ノ種類ハ各種介殼及「ロープ」トス

三、種苗ノ大サ六耗（二分）乃至十八耗（六分）トシ種苗數ハ一箱ニ付一萬箇以上トス

四、害敵殊ニ「ニシ」類ノ附着セサルモノ

五、汚物汚泥等ノ附着セサルモノ

六、容器ハ厚サ十五耗（五分）以上ノ松板ヲ以テ左ノ寸法ニ依リ作リタルモノ

内　法　長　八百六十五耗（二尺八寸五分）

同　幅　四百九耗（一尺三寸五分）

同　深　二百七十三耗（九寸）

第六條　移出種牡蠣ニ於テハ左ノ檢査標準ニ該當スルモノハ合格トシ然ラサルモノハ不合格トス

一、生活力旺盛ナルモノ

二、附着器ノ種類ハ各種介殼及「ロープ」トス

三、種苗ノ大サハ九耗（三分）乃至二十四耗（八分）トシ附着ノ狀態ハ介殼ニアリテハ一殼ニ付十箇以上「ロープ」ニアリテハ三百三耗（一尺）間二十箇以上附着セルモノ

四、害敵殊ニ「ニシ」類ノ附着セサルモノ

五、汚物汚泥等ノ附着セサルモノ

六、容器ハ第五條ニ掲クル箱又ハ之ト同一ノ容量ヲ有スル叺又ハ俵トス

第六條ノ二　輸出又ハ移出ヲ爲サザル種牡蠣ニ於テハ左ノ檢査標準ニ該當スルモノハ合格トシ然ラザルモノハ不合格トス

一、生活力旺盛ナルモノ

二、附着器ノ種類ハ各種介殼及「ロープ」トス

三、種苗ノ大サハ九粍（三分）乃至二十四粍（八分）トシ附着ノ狀態ハ介殼ニアリテハ一殼ニ付十箇以上「ロープ」ニアリテハ三百三粍（一尺）間二十箇以上附着セルモノ

四、害敵殊ニ「ニシ」類ノ附着セザルモノ

五、汚物汚泥等ノ附着セザルモノ

第七條　檢査ニ合格シタルモノニハ輸出種牡蠣ニ於テハ第二號樣式ノ合格票ヲ容器妻板ニ移出種牡蠣ニ於テハ第三號樣式ノ合格票ヲ容器ノ見易キ所ニ附シ輸出又ハ移出セザル種牡蠣ニハ第四號樣式ノ合格證明書ヲ交付スルモノトス

移出種牡蠣ニ對シテハ、バラ積等ノ爲第三號樣式ノ合格票ヲ附シ能ハサルトキハ第四號樣式ノ合格證明書ヲ以テ合格票ニ代フルコトヲ得

第八條　檢査員ニ於テ適當ト認メタル場合ハ第五條第二號、第三號、第六號、第六條第二號、第三號、第六條ノ二第二號、第三號ノ標準ニ依ラザルヲコト得

第九條　檢査ヲ受クル者ハ合格品ニ限リ左ノ檢査手數料ヲ組合ニ納付スベシ

再檢査ノ場合又同シ

輸出種牡蠣　一箱ニ付　金拾錢

移出種牡蠣　一箱ニ付　金五錢

輸出又ハ移出ヲ爲サザル種牡蠣一箱（八十尺）ニ付　金貳錢五厘

第十條　檢査ニ對シ不服アルトキハ檢査後五日以內ニ再檢査ヲ請求スルコトヲ得

再檢査ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

（第一號樣式）

檢査請求書

一、數量

二、養蠣場所

三、受檢場所

四、受檢月日

右檢査相成度此段及請求候也

年　月　日

住所

氏名

宮城縣牡蠣水產組合　御中

（第二號樣式）

ブリキ板

直徑　一〇糎

地色　淡桃色

字色　濃青色

（第三號樣式）

ブリキ板

直徑　五糎

地色　赤色

字色　黑色

（第四號樣式）

種牡蠣檢査合格證明書

一、數　量
二、養蠣場所
三、受檢場所
四、受檢年月日
五、受檢人

右檢査合格品タル事ヲ證明ス

年　月　日

種牡蠣檢査員　氏　名　㊞

宮城縣牡蠣水產組合剝牡蠣及殼牡蠣檢查規程

第一條　定款第五十三條ニ依ル剝牡蠣及殼牡蠣ノ檢査ハ品質及處理ニ付本則ニ依リ之ヲ行フ

第二條　檢査員派出所ノ設置場所並其ノ檢査區域ハ評議員ノ意見ヲ徵シ組長之ヲ定メ別ニ告知ス

第三條　剝牡蠣ニ對スル檢査ハ左ノ事項ニ付施行シ合格品不合格品ニ區別ス

一、鮮　度
二、肉質及形狀
三、色　澤
四、汚物汚泥及殼附着ノ有無
五、處理ノ適否
六、肉容量及容器
七、衛生上ノ適否

第四條　殼牡蠣ニ對スル檢査ハ左ノ事項ニ付施行シ合格品不合格品ニ區別ス

一、鮮度

二、形狀及身入

三、汚物汚泥附着ノ有無

四、處理ノ適否

五、容量及包裝

六、衛生上適否

第五條　剝牡蠣ニ於テハ左ノ檢査標準ニ該當スルモノハ合格トシ然ラザルモノハ不合格トス

一、新鮮ナルモノ

二、肉質及形狀ノ良好ナルモノ

三、色澤良好ナルモノ

四、汚物汚泥及殼ノ附着セザルモノ

五、處理ノ適當ナルモノ

六、容器ハ銹ノ發生又ハ汚染セザルモノニシテ內容量一八立（一斗）罐一、八立（一升）樽又ハ三、六立（二升）樽ノ三種トス

七、容器ニ直接觸レザル樣硫酸紙又ハパラフイン紙ヲ以テ包ミタルモノ

八、衛生上適當ナルモノ

第六條　殼牡蠣ニ於テハ左ノ檢査標準ニ該當スルモノハ合格トシ然ラザルモノハ不合格トス

一、新鮮ナルモノ

二、形狀及身入ノ良好ナルモノ

三、汚物汚泥ノ附着セザルモノ

四、處理ノ適當ナルモノ

五、內容量正味四十五瓩（十二貫）ノモノ

六、衛生上適當ナルモノ

第七條　檢査ニ合格シタルモノニハ第一號樣式ノ合格票ヲ容器又ハ包裝ノ見易キ所ニ附スモノトス

第八條　檢査員ニ於テ適當ト認メタル場合ハ第五條第六號、第七號及第六條第五號ノ標準ニ依ラザルコトヲ得

第九條　檢査ヲ受クルモノハ合格品ニ限リ左ノ檢査手數料ヲ組合ニ納付スベシ再檢査ノ場合亦同ジ

剝牡蠣　一升ニ付　金七厘

殼牡蠣　一俵ニ付　金貳錢

第十條　檢査ニ對シ不服アルトキハ檢査後二日以内ニ再檢査ヲ請求スルコトヲ得

再檢査ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

（第一號樣式）

表

紙

◎宮城縣牡蠣水產組合

合格

昭和　年　月　日

檢査

檢査員

認章

縱……十糎　中央ハ赤地ニ

横……六糎　地ハ白地黑字

裏

◎

產　地

生產者又扱人

剝身年月日

（殼牡蠣ニアリテハ採取年月日）

內容量

白地ニ黑字

牡蠣營業取締規則

（宮城縣令第十七號
昭和八年三月三十一日）

第一條　本令ニ於テ牡蠣營業ト稱スルハ販賣ノ目的ヲ以テ食用ニ供スル牡蠣ノ採取又ハ剝身ヲ爲ス業ヲ謂フ

第二條　牡蠣營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ知事ノ許可ヲ受クヘシ第二號以下ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ牡蠣ノ採取ノミヲ爲ス者ニ在リテハ第四號及第六號ノ事項、牡蠣ノ剝身ノミヲ爲ス者ニ在リテハ第二號及第三號ノ事項ヲ省略スルコトヲ得

一、本籍、住所、氏名、生年月日（法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ住所、氏名並定款）

二、牡蠣採取場ノ位置（圖面ニ依リ表示ノコト）

三、養蠣方法ノ種別

四、剝身作業場、牡蠣置場、圍廁ノ位置、構造、設備（平面圖添附ノコト）

五、牡蠣貯藏場ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ位置、面積、構造、設備並周圍四百米

以内ノ狀況（圖面添附ノコト）

六、使用水ノ種類及用水設備ノ狀況

前項ノ場合ニ於テ既ニ許可ヲ得タル工作物ヲ使用シテ剝身ヲ爲サムトスルモノナルトキハ其ノ旨明示シ前項第四號ノ書類ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三條　漁業組合ニ於テ組合員ノ使用ニ供スル目的ヲ以テ前條第一項第四號ノ工作物ヲ設置セムトスルトキハ其ノ位置、構造並設備（平面圖添附）ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クベシ

第四條　剝身作業場、牡蠣貯藏場、圍廁等ノ構造設備ハ左ノ制限ニ據ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ斟酌スルコトアルヘシ

一、剝身作業場ハ汚染セラレサル臨海ノ地ヲ撰ヒ地盤ハ不滲透質材料ヲ以テ築造シ周壁ハ清洗シ得ルカ如キ構造ト爲シ採光換氣ヲ十分ナラシメ「トタン」張其ノ他不滲透材料ノ剝身臺ヲ設クルコト

二、牡蠣置場ノ地盤ハ不滲透質材料ヲ以テ築造スルコト

三、牡蠣貯藏場ハ海水ノ清淨ナル箇所ニ設クルコト

四、圍廁ハ內務省考案多槽式改良便所ノ構造ト爲シ流出裝置ノ手洗水ヲ設備スルコト

五、剝身作業用水ハ海水トシ汚染セラレサル場所ヨリ樋管ニ依リ引水シタルモノヲ用フルコト但シ作業場內ノ洗滌ハ井水ヲ用フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ井戸ハ汚染セラレサル構造ト爲シ「ポンプ」ヲ備フルコト

第五條　前條ノ工作物變工シタルトキハ知事ニ屆出テ檢査ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第六條　垂下式養蠣法ニ依ラサル牡蠣又ハ泥土ノ著シク附着セル牡蠣ハ一時之ヲ牡蠣貯藏場ニ浸漬シ淨化シタル後ニ非サレハ剝身ト爲スコトヲ得ス

第七條　養業者又ハ從業者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、採取シタル牡蠣ハ第二條第一項第五號ノ牡蠣貯藏場以外ノ場所ニ浸漬セサルコト

二、介殼破損ノ牡蠣ハ剝身ト爲ササルコト

三、剝身牡蠣ヲ貯藏スル場合ハ防蠅ノ設備ヲ爲シ清潔ナル場所ニ置クコト

四、剝身牡蠣ノ洗滌及浸漬ニハ第四條第五號ノ規定ニ依リ引水シタル海水又ハ特ニ知事ノ許可ヲ得タル筒所ヨリ汲ミ取リシタル海水ヲ使用スルコト

五、剝身作業ニ從事スル場合ハ清潔ナル作業衣ヲ着用スルコト

六、剝身臺並剝身牡蠣ヲ取扱フ器具、容器ハ常ニ清潔ニ爲スコト

七、作業場ハ常ニ清潔ニ爲スコト

第八條　養業者ハ毎年九月十五日限リ作業ニ從事セシムヘキ者ノ住所、氏名、年齢ヲ知事ニ屆出ツヘシ

前項期限後作業ニ從事セシムヘキ者ニ就テハ其ノ都度知事ニ屆出ツヘシ

第九條　養業者養業管理人ヲ置キタルトキハ五日以内ニ其ノ本籍、住所、氏名、生年月日ヲ知事ニ屆出ツヘシ養業者又ハ養業管理人ノ死亡、失踪、改氏名、轉籍、住所ノ變更及廢業、休業、復業ノ場合亦同シ

前項養業者死亡、失踪ノ場合ハ戸籍法ニ依ル屆出義務者之ヲ屆出ツヘシ

第十條　牡蠣養業者他ノ養業者ヨリ剝身作業場又ハ牡蠣貯藏場ノ讓受、借受ヲ爲ストキハ連署ヲ以テ養業ノ承繼ヲ爲ストキハ戸籍抄本ヲ添ヘ之ヲ知事ニ屆出ツヘシ

第十一條　本令ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

第十二條　第二條第一項、第三條及第四條乃至第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十三條　養業者又ハ第三條ノ工作物ヲ設置シタル者カ未成年者、禁治產者又ハ法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス但シ其ノ養業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

養業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人、其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタル場合ニ於テ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

第十四條　剝身牡蠣ノ詐賣ヲ爲ス者ニ對シテハ第七條第三號、第四號、第六號及其ノ罰則ノ規定ヲ適用ス

附　則

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ營業ヲ爲ス者ハ昭和八年四月末日迄ニ本令ニ據ル手續ヲ爲スヘシ

無限(保證、有限)責任何々漁業協同組合規約例

第一章　總　則

第一條　本組合ハ漁業權、入漁權ヲ取得シ及漁業權ノ貸付ヲ受ケ並ニ組合員ノ漁業及其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條　本組合ハ左ノ事業ヲ行フ

一、蕃殖保護及增殖施設
二、船溜、船揚場及漁礁ノ設置
三、販賣施設
四、購買施設
五、資金ノ貸付
六、物ノ貸付
七、遭難防止及遭難救恤施設
八、貯金ノ斡旋

九、何　　々

第三條　本組合ハ無限(保證有限)責任何々漁業協同組合ト稱ス

第四條　本組合ノ組織ハ無限(保證有限)責任トス

(保證金額ハ出資一口ニ付金何圓トス—保證責任組合ノ場合ニ限ル)

第五條　本組合ノ地區ハ何縣何郡何村(大字何)ノ區域トス

第六條　本組合ノ事務所ノ所在地ハ何縣何郡何村トス

第七條　本組合ノ地區內ニ住所ヲ有スル漁業者ハ組合員タルコトヲ得

漁業者ニ非ザルモ左ノ各號ノ一ニ該當シ一年以上本組合ノ地區內ニ住所ヲ有スル者ハ組合員タルコトヲ得

一、漁業從業者

二、何　　々

第八條　組合員其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク書面ヲ以テ本組合ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ組合員名簿ヲ訂正シ且屆出年月日ヲ記入スルモノトス

第九條　組合原簿ニ記載シタル事項ノ變更登記ノ申請ハ取纒メテ每事業年度ノ終ヨリ二週間以內ニ之ヲ爲スモノトス

第十條　漁業組合令ニ依ル公告ハ本組合ノ掲示場ニ掲示シ且何同以上何新聞ニ掲載シテ之ヲ爲スモノトス

第十一條　本組合ノ財產ニ對スル組合員ノ持分ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

一、出資金ニ對シテハ出資額ニ應ジ算定ス

二、其ノ他ノ財產ニ對シテハ組合解散(合併及分割ノ場合ヲ除ク)ノ場合ニ限リ算定シ其ノ割合ハ平等トス組組合財產ガ出資總額ヨリ減少シタル場合ニ於テハ出資額ニ應ジ本組合財產ニ對スル持分ヲ算定ス

第二章　出資及積立金

第十二條　出資一口ノ金額ハ金何圓トス

第十三條　出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金何圓トス

組合員ハ前項ノ金額ヲ超エテ任意ニ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十四條　第二回以後ノ出資拂込ハ配當スヘキ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノノ外出資一口毎ニ毎年何月末及何月末迄ニ金何圓宛拂込ムモノトス

組合員ハ前項ノ金額ヲ超エテ任意ニ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十五條　出資ノ拂込ヲ怠リタルトキハ拂込期日後一日ニ付拂込ムベキ金額ノ何分ノ何ニ當ル過怠金ヲ徵收スルモノトス

第十六條　本組合ハ出資總額ノ何倍ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ何分ノ何以上ヲ準備金トシテ積立ツルモノトス

第十七條　過怠金及拂戻ヲ爲ササル持分額ハ主ヲ準備金ニ組入ルルモノトス

第十八條　準備金ハ損失塡補ニ充ツル外之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十九條　本組合ハ漁船減價償却資金、建物減價償却資金、設備減價償却資金、職員退職給與資金及遭難救恤資金ヲ積立ツルモノトス

本組合ハ漁船、建物又ハ設備ノ新造、改造又ハ買入ノ費用ニ對テ補助金ヲ受ケタルトキハ之ヲ漁船減價償却資金、建物減價償却資金又ハ設備減價償却資金ニ組入ルルモノトス

第二十條　漁船減價償却資金、建物減價償却資金又ハ設備減價償却資金ハ漁船、建物又ハ設備ノ減價償却ニ充ツルモノトス

職員退職給與資金ハ總會ノ承認ヲ經テ定メタル支給規程ニ依リ支給スル職員ノ退職給與金ニ充ツルモノトス

遭難救恤資金ハ第百十一條ノ規定ニ依ル救恤ニ充ツルモノトス

第二十一條　本組合ハ剩餘金ヨリ特別積立金ヲ積立ツルコトヲ得

漁業權ノ賃貸料ハ之ヲ特別積立金ニ組入ルルモノトス

特別積立金ハ損失塡補ニ充ツルモノトス但シ總會ノ決議ニ依リ臨時ノ支出ニ充ツルコトヲ得

第二十二條　準備金、特別積立金、漁船減價償却資金、建物減價償却資金、設備減價償却資金又ハ職員退職給與資金ハ總會ノ決議ヲ經テ事業資金ニ融通スルコトヲ得

第三章　組合員ノ加入、增口及脫退

第二十三條　本組合ニ加入セントスル者又ハ出資口數ヲ增加セントスル者ハ申込書ニ

氏名及住所並ニ引受ケソトスル出資口數ヲ記載シ本組合ニ之ヲ差出スヘシ

本組合前項ノ申込ヲ承諾シタルトキハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知シ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後組合員名簿ニ記載スルモノトス

第二十四條　組合員其ノ持分ヲ讓渡サントスル場合ニ於テハ本組合ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス

第二十三條ノ規定ハ組合員ニ非ズシテ持分ヲ讓受ケントスル者ニ之ヲ準用ス

第二十五條　組合員ノ死亡ニ因リ家督相續開始シタルトキハ家督相續人ヨリ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ本組合ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキ又ハ本組合ガ組合員ノ死亡ニ因リ家督相續開始アリタルコトヲ知リタルトキハ被相續人ニ代リ組合員ト爲リタル家督相續人ニ付組合員名簿ニ記載ヲ爲シ其ノ旨ヲ當該家督相續人ニ通知スルモノトス

第二十六條　組合員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトアルベシ

一、出資ノ拂込其ノ他本組合ニ對シ支拂フベキ金錢ノ支拂ヲ怠リ二回以上督促ヲ受クルモ仍其ノ義務ヲ履行セザルトキ

二、第六十一條、第百十七條、第百十八條又ハ第百二十條ノ規定ニ違背シテ漁業ヲ爲シタルトキ

三、本組合ノ秩序ヲ亂シ又ハ其ノ業務ヲ妨クル行爲アリタルトキ

四、犯罪其ノ他不正ノ行爲ニ因リ本組合ノ信用ヲ毀損シタルトキ

第二十七條　總會ニ於テ除名ノ決議ヲ爲シタルトキハ本組合ハ事由ヲ明示シタル書面ヲ以テ其ノ旨ヲ本人ニ通知シ組合員名簿ノ記載ヲ抹消シ且除名ノ年月日ヲ記入スルモノトス

第二十八條　組合員事業年度ノ終ニ於テ脫退セントスルトキハ其ノ事業年度ノ終ヨリ少クトモ六月前ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ本組合ニ申出ツヘシ

前項ノ場合ニ在リテハ事業年度ノ終ニ於テ組合員名簿ノ記載ヲ抹消シ且脫退ノ年月日ヲ記入スルモノトス

第二十九條　組合員其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ本組合ニ屆出ツヘシ

本組合組合員タル資格ヲ喪失シタル者アルコトヲ知リタルトキハ其ノ事由ヲ明示シタル書面ヲ以テ其ノ旨ヲ本人ニ通知スルモノトス

組合員組合員タル資格ヲ喪失シ又ハ死亡シタルトキハ本組合ハ組合員名簿ノ記載ヲ抹消シ且資格喪失又ハ死亡ノ年月日ヲ記入スルモノトス

前項ノ規定ハ組合員ノ死亡ニ因リ家督相續開始シタル場合ニ於テ組合員名簿ニ記載セラレタル家督相續人相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ三月以内ニ組合員ト爲ラサル旨ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　組合員脫退シタル場合ニ於テ拂戻スヘキ持分ノ額ハ其ノ拂込濟出資額ニ止ムルモノトス但シ除名ニ因ル場合ニ在リテハ其ノ拂込濟出資額ノ半額ニ止ムルモノトス

第四章　役員

第三十一條　本組合ニ理事何名監事何名ヲ置ク

理事ハ組合長ヲ互選ス

第三十二條　組合長ハ組合ヲ代表ス組合長事故アルトキハ理事ノ協議ニ依リ其ノ一人之ニ代ル

第三十三條　理事ノ任期ハ三年トシ監事ノ任期ハ一年トス但シ任期滿了後ト雖モ後任者ノ一人就任スル迄仍在任スルモノトス

前項ノ任期ハ選任ノ日ヨリ之ヲ起算スルモノトス

補缺選任ニ依リ就任シタル理事及監事ハ前任者ノ任期ヲ承繼ス

第三十四條　辭任其ノ他ノ事由ニ因リ理事又ハ監事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ近接セル總會迄猶豫スルコト能ハザル場合ニ限リ臨時總會ヲ招集シ補缺選任ヲ爲スモノトス

總會ガ理事又ハ監事ノ解任ヲ決議シタルトキハ同時ニ其ノ補缺選任ヲ爲スモノトス

第三十五條　組合員ハ正當ノ理由ナクシテ役員ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ズ

第三十六條　理事及監事ハ名譽職トス但シ專ラ組合事務ヲ掌理スル理事ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ有給ト爲スコトヲ得

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ役員タルコトヲ得ス

一、未成年者
二、禁治産者又準禁治産者
三、禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終ラサル者又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
四、破産者ニシテ復權ヲ得サル者
五、漁業法第四十八條第二號ノ處分ヲ受ケ三年ヲ經過セサル者
六、組合ヨリ違約者處分ヲ受ケ一年ヲ經過セザル者

第三十八條　本組合ニ事務員若干名ヲ置キ組合長之ヲ任免ス
事務員ハ役員ノ指揮ヲ承ケ組合事務ニ從事ス

第五章　會議

(總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クル組合ニ在リテハ別ニ定ムル第五章ノ二ノ會議ニ關スル規定ニ準ジ適宜之ヲ定ムルコト)

第三十九條　通常總會ハ毎年一回何月之ヲ開ク
臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク
一、理事カ必要ト認メタルトキ
二、總組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的又事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求シタルトキ
三、監事カ漁業組合令第三十六條第三項ノ規定ニ依リ必要ト認メタルトキ
前項第二號ノ場合ニ於テハ組合長ハ其ノ請求ヲ其ケタル日ヨリ二週間以内ニ之ヲ招集スヘシ

第四十條　總會ヲ招集スルニハ少クトモ三日前ニ書面ヲ以テ會議ノ目的タル事項日時及場所ヲ各組合員ニ通知スルモノトス

第四十一條　本規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ニ掲グル事項ハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス
一、貸借對照表、剰餘金ノ處分書、財産目錄及事業報告書ノ承認ヲ爲スコト
二、漁業權又ハ不動産ニ關スル物權ノ得喪又ハ變更ヲ目的トスル行爲
三、負債ヲ起スコト

四、漁業法第四十三條ノ八ノ規定ニ依リ自ラ漁業ヲ營ムコト
五、組合員ノ除名
六、組合員ニ非サル者ニ對スル漁業權ノ貸付又ハ入漁權ノ設定、得喪若ハ變更
七、規約ノ變更
八、理事又ハ監事ノ選任又ハ解任
九、理事ノ專決處分ニ對シ承認ヲ爲スコト
十、漁業法第十五條、第二十八條又ハ同法施行規則第十七條第二項ノ同意
十一、訴願、訴訟又ハ和解
十二、聯合會ヲ設立シ又ハ之ニ加入シ若ハ之ヨリ脫退スルコト
十三、產業組合ニ加入シ又ハ之ヨリ脫退スルコト
十四、組合ノ解散、合併又ハ分割

第四十二條　總會ニ於テハ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ非ザレバ決議ヲ爲スコトヲ得ズ
但シ緊急且輕微ナル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　第四十一條第二號乃至第五號、第七號、第八號及第十一號乃至第十四號ニ揭ケタル事項ノ決議ハ總組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第四十一條第二號、第七號及第十一號ニ揭ケタル事項中漁業權又ハ入漁權ニ關スル事項並ニ第四號ニ揭ケタル事項ニ付前項ノ規定ニ依リ爲ス決議ニハ尙漁業者タル組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第四十四條　第四十一條第六號及第十號ニ揭ケタル事項ノ決議ハ總組合員二分ノ一以上出席シ其ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ爲ス決議ニハ尙漁業者タル組合員二分ノ一以上出席シ其ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス

第四十五條　第四十三條及前條ノ場合ヲ除クノ外總會ノ決議ハ總組合員二分ノ一以上出席シ其ノ二分ノ一以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス若シ二分ノ一ニ滿タザルトキハ十日以內ニ同一事項ニ付更ニ總會ヲ招集シ總組合員ノ三分ノ一以上出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ決議ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　總會ノ議長ハ組合長之ニ當ル組合長事故アルトキハ理事ノ協議ニ依リ其